

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

13

2009年10月

大阪府教育委員会



はじめに

日々、さまざまな情報が載せられる新聞紙上で、時折文化財に関する記事が紙上をにぎわす事があります。数ある文化財の中でも、全国各地から埋蔵文化財の発掘調査による新たな情報が、皆様の知的好奇心を惹きつけることもあります。

文化財調査事務所では、府内の公共工事に伴う発掘調査を年間数十件手がけています。日々実施しております発掘調査の成果は、地道な作業により得られるものであり、府内各地域の貴重な歴史情報源です。そこで、平成20年度にどのような発掘調査が行われたのかをお知らせするため、21件の調査成果を速報いたします。

発掘調査により得られた考古資料の情報は、そのままの姿では歴史を語る事ができません。丁寧に時間をかけて情報を資料から取り出す作業を通じて、活用できる文化財として蓄積されていきます。

蓄積された情報を活用するため、報告書の公刊、博物館へ貸出展示、各機関や個人からの閲覧、撮影など要望に応じた、普及広報活動事業を行っています。

調査事務所では、今に生きる人々が未来を見通す指針の手助けとなるため、文化財の保存と活用に努めて参りますので、なお一層のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成21年10月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 野口 雅昭

例 言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第 13 冊である。
2. 本書には、本府教育委員会が実施した平成 20 年度の発掘調査及び普及啓発活動等の記録を記載している。
3. 埋蔵文化財調査の中の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は第 3 表の調査番号と一致する。
遺跡名（平成 20 年度調査番号）
 - (1) 所在地
 - (2) 調査の原因となった事業
 - (3) 調査担当者
4. 各項の執筆分担は次のとおりである。

「平成 20 年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査第一グループ 渡邊 昌宏
「調査概要報告」	調査第一・二グループ
「平成 20 年度普及啓発・広報事業及び資料」	調査管理グループ
「平成 20 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧」	調査管理グループ
「平成 20 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧」	調査管理グループ
「平成 20 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図」	調査管理グループ
5. 本書の編集は、調査管理グループが行った。
6. 本書は 500 部作成し、一部あたりの単価は 290 円である。

目 次

はじめに
例 言
目 次
挿図目次
表目次
グラフ

平成 20 年度における埋蔵文化財調査の概況 1

【主要発掘調査の概要報告】

都屋北遺跡 (08001)	5
府中遺跡 (08002)	7
豊中遺跡 (08002)	8
高木遺跡 (08004)	9
東郷遺跡 (08005)	10
大和川今池遺跡 (08010)	11
久宝寺遺跡 (08011)	12
寺田遺跡 (08012)	13
衣ヶ谷古墳 (08013)	14
千里丘遺跡 (08014)	15
難波宮跡 (08015)	16
山城廃寺 (08016)	17
金岡遺跡 (08017)	18
倉治遺跡 (08018)	19
和泉寺跡・府中遺跡 (08019)	20
鳩原遺跡・川上神社遺跡 (08020)	21
芹生谷遺跡 (08021)	22
禁野本町遺跡 (08024)	23
池内遺跡 (08027)	24
加美遺跡 (08030)	25
田尻遺跡 (08034)	26

【資料紹介】

平野屋新田会所跡 —江戸時代の農業経営の姿を残す—	27
新上小阪遺跡・呉竹遺跡出土礎板	30
都屋北遺跡現地説明会におけるアンケート調査について	32
平成 20 年度普及啓発・広報事業及び資料	37
平成 20 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧	39
平成 20 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧	40
平成 20 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	48

挿図目次

図1 調査位置図	4	図35 調査区位置図	17
図2 部屋北遺跡調査区位置図	5	図36 山城廃寺4区全景(北から)	17
図3 管廊2地区第12面全景	5	図37 調査地位置図	18
図4 第12面竪穴住居	6	図38 調査区配置図(1/1500)	18
図5 管廊3地区第9面全景	6	図39 1区遺構検出状況(西から)	18
図6 管廊1地区第10面全景	6	図40 8区遺物出土状況(西から)	18
図7 第10面上坑遺物出土状況	6	図41 調査区的位置(S=1/15000)	19
図8 管廊1地区第12面全景	6	図42 遺物包含層検出状況	19
図9 第12面竪穴住居	6	図43 調査区全景(西から)	19
図10 地区番号とこれまでの調査地点	7	図44 調査区全景(東から)	19
図11 04区縄文土器出土状況	7	図45 調査区位置図(S=1/10000)	20
図12 05区弥生時代の溝	7	図46 南西区第2面(南西から)	20
図13 断面模式図(9トレンチ)	8	図47 南西区自然流路土器出土状況(東から)	20
図14 17トレンチ第2面大溝(西より)	8	図48 河内長野市鳩原地区	21
図15 調査区位置図(2500分の1)	8	図49 川上神社西の張り出し	21
図16 調査区位置図	9	図50 鳩原遺跡の柱穴群	21
図17 C1区 水田跡と大型掘立柱建物	9	図51 古墳時代柱穴群(南から)	22
図18 位置図	10	図52 鎌倉時代大落ち込み(南西から)	22
図19 1区全景	11	図53 調査区位置図	22
図20 調査区位置図	12	図54 位置図	23
図21 貯木施設跡	12	図55 調査区位置図	23
図22 奈良時代遺構検出状況	12	図56 調査区配置図	24
図23 調査区位置図(S=1/10000)	13	図57 3区大溝断面	24
図24 第3面竪穴住居跡(北西から)	13	図58 調査区位置図	25
図25 竪穴住居跡内土坑土層断面(南西から)	13	図59 第5層上面(北半部) 畦畔(南から)	25
図26 位置図	14	図60 調査地点位置図(1/5000)	26
図27 石室(女室・奥室)	14	図61 溝検出状況	26
図28 石室(羨道)	14	図62 大溝平面図、土層断面図	26
図29 第5遺構面 鋤溝群 東から	15	図63 遺構検出状況(空撮)	29
図30 調査地位置図	16	図64 遺構検出状況概略図	29
図31 調査区配置図	16	図65 新上小阪遺跡出土礎板	30
図32 Aトレンチ(西より)	16	図66 呉竹遺跡出土礎板	30
図33 Bトレンチ(東より)	16	図67 新上小阪遺跡・呉竹遺跡位置図	30
図34 山城廃寺周辺の遺跡	17	図68 当日配布した質問用紙	32

表目次

表1 原因別調査種別表	1
表2 地域別調査面積・件数一覧表	1
表3 平成20年度調査箇所一覧表	3

グラフ

グラフ1 原因別調査面積の推移	2
グラフ2 地域別調査面積の推移	2

— 平成 20 年度における埋蔵文化財調査の概況 —

調査件数と面積

大阪府教育委員会が平成 20 年度に実施した調査件数は、発掘調査が 18 件、確認調査 10 件、立会調査 6 件、試掘調査 11 件の合計 45 件であった。

なお、調査面積の算出が困難な立会調査を除く、発掘調査と試掘調査及び確認調査の調査面積を合計すると 19,863㎡である。また、遺物整理事業は、11 件であり、調査報告書 5 冊と調査概要報告書 2 冊を刊行している。

平成 20 年度に実施した埋蔵文化財調査の傾向としては、前年度に比較して調査件数と面積が共に減少している点があげられる。調査件数は平成 19 年度から 25%の減少であり、調査面積は約 27%の減少であった。

これらの調査件数と調査面積の減少は、平成 20 年度から本格化した、本府の行財政改革に伴う公共事業の見直しに連動した、予算削減の影響が大きく現れた結果と考えられる。表 1 に示したとおり、前年度まで発掘調査の主要な部分を構成していた府営住宅事業が急激に減少している。それに対して、平成 20 年度には、下水道事業の増加が著しい。

一方、表 2 に示した地域別調査面積を見ると、泉南地域と三島地域・北河内地域・中河内地域のそれぞれで減少が目立っている。但し、北河内地域の場合は、前年度に比べて調査件数が 1 件のみの減少に対して、調査面積が 6 割減っており、1 件あたりの調査面積の減少が顕著であった。このような小面積での発掘調査等の増加は、結果的に調査に要する

人員と時間を増やすことになり、作業効率の悪化を招いている。

それに対して、下水道事業の増加を背景とした南河内地域での調査面積は、平成 19 年度に比較して約 1.5 倍の増加を示している。

主な調査成果

平成 20 年度の調査成果については、5 頁以降に主な 21 遺跡の内容を記載しており、ここでは、平成 20 年度調査成果について、時代ごとの概略を紹介したい。

縄文時代

縄文時代については、泉北地域の和泉市府中遺跡において中期後半から後期初頭の土器と石器が出土しており、中期後半の貯蔵穴と思われる土坑も発見されている。

府中遺跡の調査は、府道建設に先立って平成 14 年度から継続して実施しており、平成 18 年度以降の調査で縄文中期後半を中心とする遺構と遺物がまとまって見つかった。

弥生時代

弥生時代では、和泉市寺田遺跡から中期後半の円形竪穴住居跡 1 棟と溝や土坑が発見されており、集落の一部と考えられる。また、同じ和泉市の府中遺跡の調査においては、中期の方形周溝墓の一部と後期の溝も見出されている。さらに、府中遺跡の東南部調査地点からは、後期後半から庄内式並行期にかけての流路が見つかり、この流路から人為的に置かれた状態の土器が多数出土している。府中遺

表 1 原因別調査種別表

	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
宅宅	10,696	15	16,304	10	26,271	21	23,590	15	18,823	14	11,940	11	7,905	10	12,822	19	13,817	17	15,483	7	14,730	15	11,169	10	468	8
遺跡	11,539	15	15,482	10	10,026	21	9,242	17	12,817	18	15,250	14	8,147	12	12,441	7	10,306	8	8,008	9	1,970	4	1,564	5	872	3
道路	8,870	18	14,074	13	9,590	19	4,109	17	3,504	14	1,518	18	4,256	20	11,008	21	11,423	18	12,712	33	7,468	22	11,422	24	10,468	17
下河	1,948	7	294	10	4,395	9	4,149	6	5,068	8	22,698	14	16,846	12	12,017	8	13,180	7	8,174	6	2,181	5	160	3	7,787	5
水川	1,728	8	2,251	9	1,125	8	841	7	530	3	1,388	8	146	4	1,598	4	8,204	5	5,063	2	3,883	2	204	2	10	2
高校	1,844	7	1,880	2	750	1	8	1	425	3	926	4	8	1	1,054	7	144	9	808	7	24	8	12	1	140	1
その他	207	7	3,948	9	665	9	2,048	8	9,220	8	2,000	8	1,139	6	745	6	246	10	2,783	12	1,289	12	2,788	15	238	9
合計	38,842	78	54,131	65	57,782	88	44,035	72	52,185	70	54,721	73	38,507	65	62,385	70	54,282	72	56,072	79	31,825	68	27,329	60	19,863	45

● 面積は㎡である

表 2 地域別調査面積・件数一覧表

	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
大阪府	70	0	143	3	298	6	572	4	0	0	1,860	2	1,304	3	258	5	238	8	245	2	120	4	0	0	66	2
泉南	9,882	14	2,901	17	5,205	20	8,638	19	9,810	12	5,723	17	450	5	8,871	8	4,782	11	1,417	12	4,794	8	4,089	8	436	5
泉北	8,760	7	13,559	6	5,922	12	3,531	8	8,240	8	854	6	5,043	10	3,897	9	7,881	16	7,257	12	485	7	6,519	8	6,857	10
河内	2,662	8	20,144	8	28,178	18	9,324	18	11,450	19	18,747	16	9,381	18	14,250	14	6,388	12	16,433	15	4,542	10	6,534	9	9,850	11
中河内	2,099	14	6,878	11	1,205	10	665	8	8,788	12	3,285	15	949	14	3,319	12	887	9	50	11	1,228	18	2,904	10	322	3
北河内	4,664	11	5,738	9	7,948	10	10,396	9	4,978	10	16,263	4	17,864	4	15,733	10	16,094	9	29,823	15	13,252	10	4,940	10	1,985	9
三島	2,163	4	1,527	7	5,779	8	4,883	7	10,829	8	6,572	8	2,175	8	5,857	11	14,900	8	11,287	8	6,677	12	2,969	10	485	5
豊後	8,513	12	3,847	2	5,549	5	8,026	5	310	1	317	5	1,541	2	0	0	12	1	360	2	50	2	204	4	0	0
合計	38,842	78	54,131	65	57,782	88	44,035	72	52,185	70	54,721	73	38,507	65	62,385	70	54,282	72	56,072	79	31,825	68	27,329	60	19,863	45

● 面積は㎡である

跡の西側に隣接する和泉市豊中遺跡においては、弥生時代後期の2間×3間以上の独立柱建物跡が1棟と同時期の溝が発見されている。

南河内地域の松原市高木遺跡では、平成19年度の調査ですで見つかった、弥生時代後期の方形竪穴住居跡の南東隅部分を確認している。

古墳時代

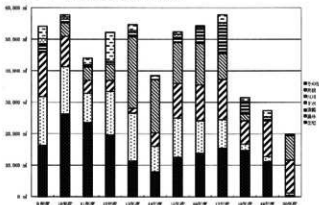
古墳時代の調査成果としては、北河内地域の四條畷市郁屋北遺跡において、中期から後期の大規模な集落跡の一部が発見されている。この遺跡は、下水処理施設である「なわて水みらいセンター」建設に先立って、平成13年度から継続的に発掘調査を実施しており、以前の調査で5世紀後半の馬埋葬土坑と馬具等が見つかった話題となった遺跡である。

郁屋北遺跡の本年度の主な調査成果としては、中期から後期にかけて営まれた集落の北東居住域から、方形竪穴住居跡3棟と独立柱建物跡5棟及び多数の土坑・溝が見出されている。さらに、ほぼ同時期の集落南東居住域では、方形竪穴住居跡3棟と独立柱建物跡3棟及び井戸・土坑・溝が発見されている。出土遺物としては、製塩土器と韓式系土器が本年度の調査でも、まとまって見つかった。

また、中河内地域の八尾市久宝寺遺跡では、古墳時代前期の溝と堤が見つかった。特に堤については、堤を構築する際に、盛土の間に枝葉を敷いて強化する「敷葉工法」が用いられていることが確認されている。

南河内地域の松原市大和川今池遺跡からは、後期の溝と土坑が発見されており、同時期の須恵器蓋も出土している。同じく南河内地域の河南町芹生谷遺跡では、後期の柱穴群が三箇所で見出されており、独立柱建物で構成される集落の存在が想定される。

一方、泉南地域の岸和田市衣ヶ谷古墳は、道路工事中に偶然発見された古墳である。墳丘はすでに削平されていたが、1辺が10m程度の小規模な方墳で、横穴式石室をもつ7世紀初頭の終末期古墳でグラフ1 原因別調査面積の推移



る。盗掘を受けているが、石室内から須恵器、土師器、耳飾り(金環)、釘等が出土しており、泉南地域の終末期古墳の実態を示す貴重な発見であった。

奈良時代から平安時代

この時期については、中河内地域の八尾市久宝寺遺跡において、奈良時代後半の溝によって区画された独立柱建物が1棟見つかった。

また、南河内地域の松原市高木遺跡からは、奈良時代後半から平安時代初頭にかけて、水田域を意図的に整地し、大型独立柱建物で構成する集落に変遷する状況を確認している。大型の円面硯も出土しており、古代の街道に近接した遺跡立地から、特別な性格を有する集落の可能性がある。同じく南河内地域の河南町山城廃寺においては、奈良時代から平安時代にかけての集落の一部が発見されている。

この他、北河内地域の交野市倉治遺跡と泉北地域の堺市金岡遺跡及び南河内地域の松原市池内遺跡からは、それぞれ古代から中世にかけての集落の一部が見つかった。

平安時代末から室町時代

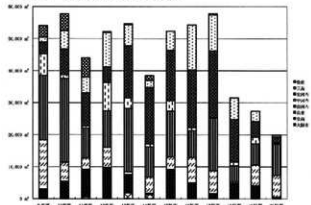
淀川以北に広がる三島地域の摂津市千里丘遺跡では、この時期の耕作地が重層的に確認されている。

また、南河内地域の松原市大和川今池遺跡と河南町芹生谷遺跡及び河内長野市鳩原遺跡・川上神社遺跡において、この時期の集落が発見されている。特に鳩原遺跡と川上神社遺跡は、河内長野市にある観心寺の荘園があった地域に立地している。今回の確認調査で集落が見つかり、荘園の実態を示している可能性があり、今後の調査成果が期待される。

一方、泉南地域の田尻町田尻遺跡においては、調査区の南側から幅約15mの東西方向の大溝が見つかった。この大溝は、出土遺物が少ないため、時期の確定が難しいが、瓦器片が出土している。

江戸時代

大阪市難波宮跡の確認調査では、大坂城の堀跡とおぼしき遺構が発見されている。堀の埋土から江戸



期の陶磁器類が多量に出土しているが、掘削深度の関係で堀の底部は確認できなかった。堀の掘削が江

戸期以前におよぶ可能性もあるが、江戸時代においては、堀として長期間使われていたようである。

表3 平成20年度調査箇所一覧表

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	調査者	事業名	事業内容
00001	原島北遺跡	西條市原島北	発掘	平成20年4月1日	平成21年3月27日	1,300㎡	辻本	下水道事業	溝削り遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(センター)
00002	舟中一遺跡・船場遺跡	西條市舟中町・船場町	発掘	平成20年4月1日	平成21年3月9日	3,981㎡	岡部・竹原	河川整備	舟中・船場遺跡 舟中・船場遺跡
00003	向島遺跡群	西條市向島町	発掘	平成20年4月1日	平成21年4月2日	30㎡	橋本	農地造成	穴交差ネット・穴交差管敷(向島遺跡)
00005	西木遺跡	西條市西木町	発掘	平成20年4月1日	平成21年3月31日	1,600㎡	橋本・船橋	河川整備	舟中・船場遺跡 舟中・船場遺跡
00006	高取遺跡	八幡市高取町2	発掘	平成20年4月2日	平成21年3月30日	24㎡	橋本	多量取捨	平河町民センター 芥末亭跡(高取遺跡)
00008	七の山遺跡(橋本)	西條市七の山	調査	平成20年4月6日	平成20年4月6日	10㎡	岡部	河川整備	国道10号橋本交差点 歩道設置
00007	千鳥川遺跡(橋本)	西條市千鳥川	調査	平成20年4月10日	平成20年4月11日	3㎡	橋本	河川整備	舟中・船場遺跡 千鳥川三基線整備
00008	藤原町遺跡(橋本)	西條市藤原町	発掘	平成20年4月20日	平成20年6月20日	15㎡	岡部	下水道事業	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00009	大田の土佐遺跡	西條市大田町	発掘	平成20年4月18日	平成20年4月19日	17㎡	上野	住宅区開発	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00010	大田川土佐遺跡	西條市大田川	発掘	平成21年4月1日	平成21年4月1日	5,500㎡	西川	下水道事業	大田川(大田川)の下水道管敷(舟中・船場遺跡)
00011	九宝寺遺跡	八幡市九宝寺	発掘	平成20年4月18日	平成21年4月27日	320㎡	船橋	下水道事業	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00012	寺島遺跡	西條市寺島	発掘	平成20年4月17日	平成20年4月17日	300㎡	大東	住宅区開発	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00013	穴ノ谷遺跡	西條市穴ノ谷	発掘	平成20年4月17日	平成20年4月17日	350㎡	橋本	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00014	下ノ谷遺跡	西條市下ノ谷	発掘	平成20年4月17日	平成21年2月9日	420㎡	小川	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00015	西條市立遺跡	西條市西條町	発掘	平成20年4月22日	平成20年4月22日	40㎡	船橋	住宅区開発	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00016	山崎遺跡	西條市山崎	発掘	平成20年4月20日	平成20年4月20日	420㎡	橋本	農地造成	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00017	今川遺跡	西條市今川	発掘	平成20年4月18日	平成20年4月18日	140㎡	西川	下水道事業	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00018	吉田遺跡	西條市吉田	発掘	平成20年4月18日	平成20年4月18日	90㎡	小川	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00019	西条中継・西条中継	西條市中継町4	発掘	平成20年4月17日	平成21年3月10日	2,500㎡	上野	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00020	堀川・川上・神代	西條市堀川町	発掘	平成20年4月17日	平成21年4月17日	172㎡	小山田	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00021	舟中遺跡	西條市舟中	発掘	平成20年4月18日	平成21年4月18日	600㎡	上野	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00022	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成20年4月18日	平成21年4月18日	30㎡	橋本	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00023	山崎山崎遺跡(山崎山崎)	西條市山崎山崎	発掘	平成20年4月18日	平成21年4月18日	—	岡部	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00024	堤野本町遺跡	西條市堤野本町2	発掘	平成20年4月18日	平成21年4月18日	300㎡	船橋	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00025	上野町遺跡(舟中・船場)	西條市上野町	発掘	平成20年4月18日	平成21年4月18日	12㎡	小山田	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00026	山崎山崎遺跡(山崎山崎)	西條市山崎山崎	発掘	平成20年4月18日	平成21年4月18日	—	岡部	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00027	池ノ谷遺跡	西條市池ノ谷	発掘	平成20年4月21日	平成21年4月21日	820㎡	上野・船橋	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00028	新堀遺跡	西條市新堀	発掘	平成20年4月21日	平成21年4月21日	—	山上	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00029	林田山崎山崎	西條市林田山崎	発掘	平成21年4月21日	平成21年4月21日	70㎡	山上	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00030	知天遺跡	八幡市知天町	発掘	平成21年2月9日	平成21年4月10日	70㎡	船橋	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00031	舟中遺跡	西條市舟中町	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	75㎡	船橋	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00032	大田遺跡	西條市大田町	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	—	西川	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00033	林田遺跡	西條市林田	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	25㎡	小山田	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00034	山崎遺跡	西條市山崎	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	100㎡	橋本	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00035	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	10㎡	岡部	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00036	大田遺跡	西條市大田町	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	—	山上	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00037	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	20㎡	山上	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00038	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	90㎡	橋本	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00039	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	4㎡	小山田	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00040	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	16㎡	小山田	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00041	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	8㎡	西川	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00042	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	18㎡	橋本	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00043	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	90㎡	小川	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00044	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	—	小川	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)
00045	船場遺跡	西條市船場	発掘	平成21年4月10日	平成21年4月10日	20㎡	橋本	河川整備	舟中・船場遺跡(下水道管敷)の発掘・確認(舟中・船場遺跡)

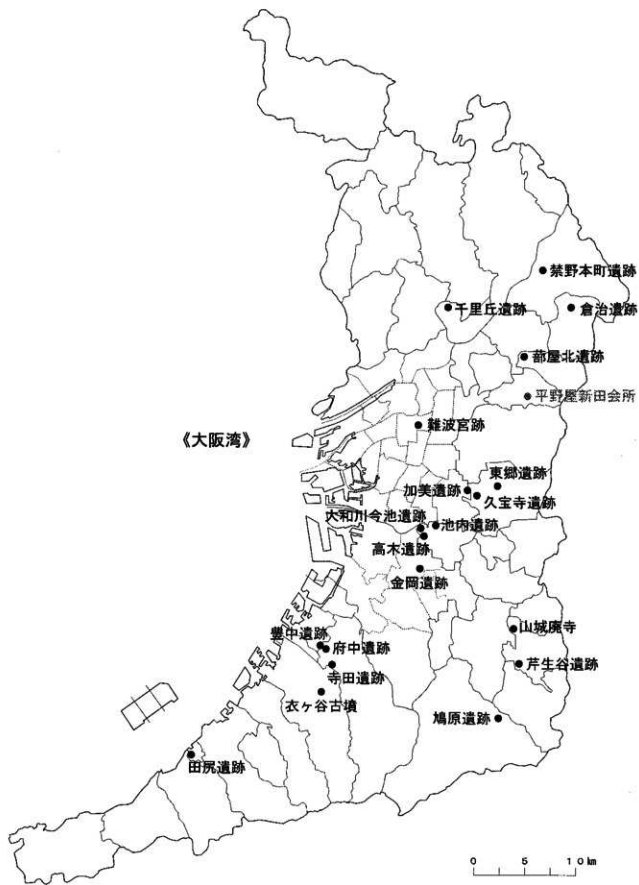


図1 調査位置図

部屋北遺跡 (08001)

- (1) 四條畷市砂・部屋
- (2) 寝屋川流域下水道整備「なわて水みらいセンター」
- (3) 岩瀬 透

はじめに

なわて水みらいセンター建設に先立って平成13年度より実施されている部屋北遺跡の発掘調査は、平成18年度までに水処理施設(A・B・C)地区、ポンプ棟・沈砂池(D)地区、砂ろ過施設(E)地区、沈砂池(D-2)地区下層、管理・送風機(F)地区等の主要施設地区、および管廊5地区の調査が終了している。平成20年度は平成19年度からの債務負担事業で、平成20年2月から引き続いて管廊2地区および管廊3地区の調査を平成20年7月まで、平成20年度事業として発進竪坑1地区の調査を平成20年8月から9月まで、管廊1地区の調査を平成20年9月から平成21年3月まで、雨水管渠地区の調査を平成21年1月から2月までの期間で実施した。(図2)

管廊2地区(K2調査区)の調査概要

K2調査区では12面の遺構面を確認した。そのうち主要な遺構を検出した面は第12面で、古墳時代中・後期に属する遺構を検出した。ここで検出した遺構は、東接するC調査区で検出された北東居住域と関連するものである。(図3)

北東居住域に属する遺構としては竪穴住居3棟(図4)、掘立柱建物跡5棟、土坑、溝、そして北東居住域の西を南東から北西方向に走る区画溝など多くの遺構が検出され、須恵器、土師器、韓式土器をはじめとする大量の土器類が出土した。

管廊3地区(K3調査区)の調査概要

K3調査区では9面の遺構面を確認した。

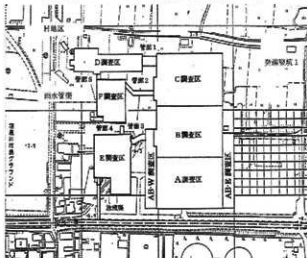


図2 部屋北遺跡調査区位置図

そのうち主要な遺構を検出した面は第9面で、古墳時代中・後期に属する遺構を検出した(図5)。ここで検出した遺構は、西接するE調査区および東接するB調査区で検出された南東居住域と関連するものである。

遺構としては大壁住居1棟、竪穴住居2棟、掘立柱建物跡3棟、井戸、落ち込み、土坑、溝など多数が検出され、須恵器、土師器、韓式土器、製塩土器、U字形板状土製品などが大量に出土した。

発進竪坑1地区(HT1調査区)の調査概要

HT1調査区では13面の遺構面を確認した。

そのうち主要な遺構を検出した面は第6面、第7面、第12面で、第6面では古墳時代後期に属する遺構を、第7面では古墳時代中期に属する遺構を、第12面では弥生時代中期に属する遺構を検出した。

第6面の遺構としては溝2条が検出され、そのうちの1条から須恵器、土師器などとともに、滑石製白玉、土玉が500点以上出土した。これらの遺物は径2m程の範囲内に集中して出土しており、土師器の中にミニチュア製品が認められることなどから、祭祀的な性格を持った遺構と考えられる。

第7面の遺構としては土坑が検出され、内部から須恵器、土師器が出土した。

第12面では土坑が3基検出された。内部から遺物は出土しなかったが、遺構面直上の遺物包含層から弥生時代中期の遺物が出土しており、遺構は同時期のものと考えられる。

管廊1地区(K1調査区)の調査概要

K1調査区では15面の遺構面を確認した。

そのうち主要な遺構を検出した面は第9面、第10面、第11面、第12面で、第9面では古墳時代



図3 管廊2地区第12面全景

後期～奈良時代に属する遺構を、第10面では古墳時代中期～後期に属する遺構を(図6)、第11面と第12面では弥生時代中期に属する遺構を検出した(図7)。

第9面では調査区を北東から南西方向に横切る流路が認められ、底面付近に堆積した荒砂内から古墳時代後期の須恵器、土師器などが大量に出土し、埋土最上層からは奈良時代の須恵器が出土している。

第10面の遺構としては竪穴住居2棟、掘立柱建物5棟、井戸1基、土坑3基などがあり、須恵器、土師器、韓式系土器などが大量に出土した(図8)。ここで検出した遺構は、西接するD調査区および東接するC調査区で検出された北東居住域と関連するものである。

第11面の遺構としては竪穴住居1棟、土坑、溝などが調査区全域で多数みられた。遺構内から弥生式土器や石器、木器などが多数出土し、これらから

11面の遺構は畿内第Ⅲ様式の前段階に属するものと考えられた。

第12面の遺構としては竪穴住居1棟(図9)、溝、ピットなどが11面と同様に調査区全域にみられ、遺構内から弥生式土器や石器などが多数出土し、これらから、12面の遺構は畿内第Ⅱ様式に属するものと考えられた。

11面と12面の遺構はD調査区東半部で検出されている集落と関連するものである。

雨水管渠地区(UK調査区)の調査概要

UK調査区では9面の遺構面を確認した。そのうち主要な遺構を検出した面は第9面で、古墳時代中期～後期に属する遺構を検出した。ほぼ東西方向に広がる遺構であるが、調査区が狭小なため、検出したのは北側の肩部のごく一部分であり、遺構の種類、規模などは不明といわざるを得ない。内部から須恵器、土師器、木製品などが少量出土した。



図4 第12面竪穴住居



図7 第10面土坑遺物出土状況



図5 管廊3地区第9面全景

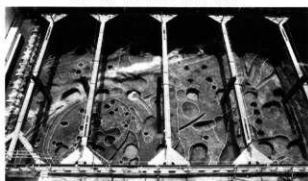


図8 管廊1地区第12面全景



図6 管廊1地区第10面全景



図9 第12面竪穴住居

府中遺跡 (08002)

- (1) 和泉市府中町地内
- (2) 都市計画道路和泉中央線整備
- (3) 阿部幸一

本調査は平成14年(02年)度から継続して実施している。平成20年(08年)度は、道路の和歌山側に敷設されている用水路部分(幅2m)と現道路部の調査を実施した。

東南端の市役所北交差点西南側の05、06区では、弥生時代中期と後期の溝を検出した。中期の溝は前年調査でも検出しており、完形に近い土器が出土している。幅12mの国道を挟んだ調査地で検出された周溝墓群(平成14、18年調査)と比べて溝幅が大きく、周溝墓群が広がるか検討が必要であろう。

8区では06年調査で検出した方形周溝墓の南西溝を検出した。埋管工事で破壊されているが、弥生時代中期の土器が出土している。

この周溝墓群の西北側では03年の調査の河道の続きを検出した。この河道は、最上層に古墳時代初期の遺物を含む黒色土層を薄く堆積させるが、下層はほとんど遺物を含まない。調査区内を西から北に蛇行しながら流下しており、8区西北端の屈曲部で大量の流木が出土した。太い物は直径1.0m以上を測り、洪水の激しさを窺わせる。この川は、縄文時代晩期前半の南東-北西流する河道を切っており、弥生時代中期初頭には土砂の堆積により、周囲よりやや低いが平坦化したと考えられる。

04区では現地表から約2m下の層で、縄文時代中期後半の貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。平面はいびつな方形で、大きさは約1.4m×1.3m、深さ約0.4mを測る。埋土は主に黒色系のシルトや砂質土で、中期後半の深鉢が出土した。この時期の土器としては遺存状態は良好である。



図11 04区縄文土器出土状況

01、04区では縄文時代中期から後期はじめの土器が多数出土しており、縄文時代中期中頃から晩期まで、ほぼ、途切れることなくこの地域に集落が営まれていたと考えられる。

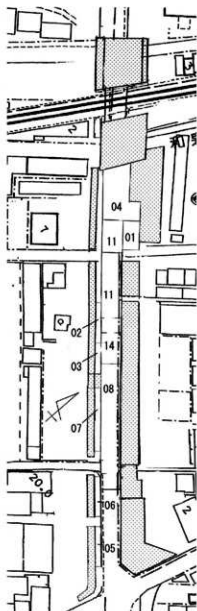


図10 地区番号とこれまでの調査地点



図12 05区弥生時代の溝

とよなか

豊中遺跡(08002)

- (1) 和泉市肥子町地内
- (2) 都市計画道路和泉中央線整備
- (3) 竹原 伸次

はじめに

JRをはさんで南東側の府中遺跡とともに2002年度から調査を実施している。今年度は、2008年8月18日から2009年2月13日まで、アンダーパス化に伴って掘削する部分、約1,220㎡の調査を実施した。道路中央の障害物撤去の遅れや、工事の進捗にあわせて調査を実施したため、調査区は7箇所に分断せざるを得なかった。

層序

基本層序は、第1層：盛土、第2層：耕作土、第3層：旧耕作土、床土、第4層：黄褐色砂質シルト、第5層：黒褐色粘質シルト、第6層：黄灰色砂質シルト、第7層：灰オリーブ砂質シルト、第8層：黄褐色粘土である。

第3、4層は、中世から縄文時代の遺物包含層である。特に第4層中から、滑石製の子持勾玉、紡錘車が出土した。第5～7層からは、遺物はほとんど出土しない。第8層からは縄文時代後期～晩期の遺

物が出土する。

遺構

遺構面は4面検出した。第1面は、全調査区から中世の耕作溝、溝を検出した。

第2面は、17トレンチから東西方向の大溝を一条検出した。幅約2m、深さ約1.3mを測る。時期は古墳時代後期である。

第3面は、16・9・12・15・13トレンチにまたがる南東から北西方向の溝を一条検出した。幅約0.5mから1m、深さ約0.5mを測る。また、17トレンチ北西端から2間×3間以上の掘立柱建物跡1棟及び溝一条を検出した。方向はほぼ方位と一致する。時期は弥生時代後期である。

第4面は、全調査区から自然流路を検出した。縄文時代後期の遺物が若干出土する。

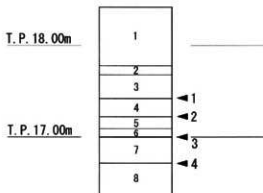


図13 断面模式図 (9トレンチ)



図14 17トレンチ第2面大溝 (西より)

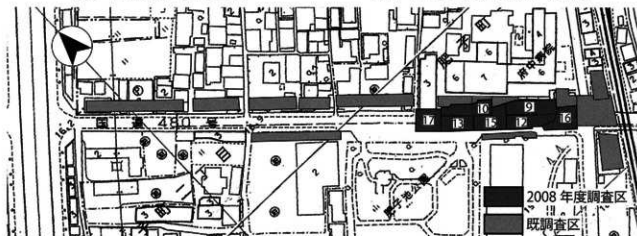


図15 調査区位置図 (2500分の1)

高木遺跡(08004)

- (1) 松原市北新町4丁目・我堂5丁目
- (2) 都市計画道路堺港大堀線整備
- (3) 服部文章

平成19年度に上記事業地内で実施したB地区の調査に引続き、その東西両側に当たるA地区及びC地区の発掘調査を実施した。その結果、A地区では弥生時代後期の集落の縁辺部や調査区を横断して流れる流川の旧河道とそこに施された木組の護岸の一部などが、C地区では奈良時代から平安時代にかけて水田から大型の掘立柱建物群へ土地利用が変更された事を示す集落後などが検出された。またB地区で事業地の南北両サイドに残された未調査部分についても併せて追加調査し、平成19年度に検出された弥生時代後期の方形竪穴住居の南東部分や大型掘立柱建物の北辺の柱列などが確認された。調査面積は合わせて1,400㎡である。

弥生時代の遺構については、平成19年度に竪穴住居が検出されたB区に隣接するA3区において、溝や土坑などの若干の遺構が検出されたのみで、当該期の集落としては縁辺部に移行する区域に当たるものとみられる。上述のとおりB区の追加調査では方形竪穴住居の南東部コーナーを検出し、竪穴住居の全容を確認することができた。

奈良時代後半から平安時代初頭の遺構は、平成19年度のB区東半から平成20年度のC区で顕著に認められ、特にC2区の東半からC3区・C4区では、ほぼ方位に一致する畦畔により区画された水田跡が検出された。これらの水田は、北から順に約0.2mの高低差をつけて東西方向の段状に区画され、それぞれの水田の北東側に給水、南西側に排水の水口を設けて配置された状況が窺われる。これらの水田区画は、鋤先等の農耕具の痕跡や人や牛馬の足跡状の痕跡が明瞭に遺存する部分として捉えることができ、そうした痕跡が認められない範囲は、耕作が及ばない地山層が帯状に残り畦畔の痕跡として捉えられる。

C1区東半からC2区西半にかけては水田跡が認められず明黄褐色の地山粘質土層が広がり、その上面では一辺、深さとも約0.8mを測る大型で隅丸方形の掘方を有する柱穴で構成される東西方向の柱列などの遺構が検出された。

またC2区北辺部で検出された水田とC1区北西部で検出された水田は、整地を施した後に同様の大型隅丸方形の柱穴で構成される掘立柱建物群が建てられており土地利用が変更されたことが明らか



図16 調査区位置図

となった。本来の生産基盤である水田区画が、明らかに意図的に整地を加え大型の掘立柱建物の区画に土地利用が変更されている点は極めて興味深い。

また平成19年度に出土した海獣葡萄鏡の存在とともに、今回の調査では大型の円面硯も出土しており、難波大道と長尾街道の交差点の北東、共に約一里に当たる一角に、奈良時代後半から平安時代初頭にかけて整然とした水田区画や一般集落とは様相を異にする大型の掘立柱建物群が存在したことを明らかにすることができたことは重要な成果と言える。

中世には遺跡の西辺部を弧を描いて北流する流川の旧河道が南東から北西の方向に貫いて流れていたことが確認され、その右岸の侵食を防ぐ木組みの護岸施設が検出された。この護岸施設は長い丸太材を右岸に沿って5本以上打設し、その上部に横木を渡して骨組みとし、河川側に樹皮状の植物遺体を編み込むように敷設して侵食の拡大を防ぐ施設と見られる。水流により杭列が外側へ折れたため崩壊し埋没した状況であることが確認された。中世期の治水土木技術を解明する上で貴重な資料と考えられる。



図17 C1区 水田跡と大型掘立柱建物

東郷遺跡 (08 005)

- (1) 八尾市荘内町地内
 (2) 中河内府民センター非常用発電機設置
 (3) 横田 明

調査地点は中河内府民センターの西側であり、調査は4月末に着工、5月末には全調査を終了した。

基本層序

厚さ1m近くの盛土を除去し、旧耕作土上面を検出したのがT.P. +7.5m前後のレベルであった。

第1層 近年の耕作土層と思われる。層厚約40cmで黒灰色～緑灰色のシルトからなる。

第2層 近世～中世までの耕作土層であり、層厚約20cm、緑灰～明黄褐色等のシルトが堆積している。

第3層 灰褐色シルトを主体とする層で、層厚約30cm、上面はT.P. +7.0mを前後する。土層断面観察ではこの上面を基盤とする落ち込みのようなものがあった。深さ20～30cmで、黄褐色系統のシルトを含んでいる。攪乱により本来溝状のものであったかどうかは断定できない。しかしながら弥生時代後期を主体とする遺物がコンテナに4箱近く出土しており、周溝などに伴う出土遺物だった可能性も考えられる。

この土器群はコンテナ約4箱である。壺と高杯が主体で、口縁部が上を向いた状態のものが多かった。第4層 明黄褐色シルトを主体とする層で、層厚10～20cmで、上面はT.P. +6.7mを前後する。この層の上面で溝状遺構が1条検出されている。

第5層 灰白色粘土を主体とする層であり、層厚約20cm、上面はT.P. +6.5mをはかる。この層の上面では小さな溝状遺構が1条検出されている。

第6層 暗灰色粘土や砂礫などを主体とする層であり、層厚は約0.4m、上面はT.P. +6.3mをはかる。この層は水平な状況の堆積でなく、不安定な環境下での堆積だったと思われる。

遺構

第2層上面 T.P. +7.0～7.2mを前後する。低平な畦畔状の高まりが西北から南東方向にのびていた。

第3層上面遺構 調査区南側にピットが3つ一列に並んでいた。3点ともに径15cm、深さ10cm前後であった。中世以降に形成されたものと思われる。

第4層上面 溝が1本検出された。この面のレベルはT.P. +6.6～6.7mを前後する。

第5層上面遺構 溝状遺構を1本検出している。上面のレベルはT.P. +6.5mを前後する。

まとめ 今回の調査では、比較的まとまった遺物が

出土した。遺物の大半は弥生時代後期に属する。

以前、実施された都市計画道路平野中高安線の拡幅工事に伴う発掘調査は、今回の調査地点よりも南～南西の地点である。弥生時代に関連する遺構・遺物については、これらの調査地点でも今回の調査と類似したレベルで水田面や中期に遡る自然河川などが発見されており、今回の調査によってさらに北側にまで弥生時代の遺物包含層が広がっていることが確認された。今回の調査は狭い範囲で、後世の攪乱も多かったため、遺物の性格などは不明といわなければならない。断定はできないものの本来は、周溝墓の周囲にめぐらされた周溝に伴う遺物であった可能性も想定されるものである。今後、近隣地域での調査知見の増加が待たれるところである。

また今回の調査では弥生時代以外の遺構・遺物は貧弱である。耕作等により削平されたのであろう。



図18 位置図

大和川今池遺跡(08010)

- (1) 松原市天美北三丁目 地内
- (2) 大和川下流域城下水道整備「今池水みらいセンター」
- (3) 西川寿勝

はじめに

大和川今池遺跡は北に記紀に記載がある「依網池」跡が知られ、付近は古代豪族、依網連の本拠地との伝承をもつ。また、孝徳天皇の前期難波宮の中軸貞南に位置する道路状遺構が、遺跡中央を南北に貫き、これは『日本書紀』に記される「難波大道」と推定される。「難波大道」はその後の水田条里の基線となり、河内・摂津の国境にも引き継がれる。

遺跡は今池水みらいセンター(旧今池下水処理場)建設などに伴い、これまで40以上の継続的な発掘が行なわれている。今回の現地調査は平成20年8月に開始し、翌6月まで実施している。

調査成果

今回調査区は今池をはさんで南北二ヶ所(南側が1区・北側が2区)に分かれる合計約6500㎡である。主な遺構に、古墳時代後期の溝・土坑、平安～鎌倉時代の建物・ピット群・溝、江戸時代の井戸・牛馬歩行痕跡などがある。

加えて、二つの調査区で今池の東に張り出す副池の北堤・南堤を調査し、近世築堤の実態とその下層溝を明らかにした。

古墳時代後期の溝は2区北方の地形に沿って、西南から東北にのびる幅約2m、深さ約0.5mの不定形で、流水堆積は認められなかった。その南の土坑とともに、6世紀前半(MT85時期)の須恵器蓋杯などが発見された。

平安～鎌倉時代の建物・ピット群は1区南端で確認された。建物は2間×3間の東西棟で南側は調査区外へとのびる。北側と東側に欄列を伴う。付近の土坑や建物上面から黒色土器・華南産白磁・東播系すり鉢などが発見された。

井戸は1区で5基、2区で5基発見された。そのうち3基は上層に木組みを施し、下層に二段の桶枠すえた共通する構造である。他は素掘りで、遺物を含まないものもあるが、いずれも江戸時代のものだろう。このうち、木組み井戸1-5は今池堤の下層から発見され、18世紀代の肥前磁器を伴った。

今池南側・北側の堤は幅約6m、高さ1.5m以上をはかる。池の外側に排水の溝を伴う。堤は砂利・礫をふくむ粘土を丁寧に積み上げ、「はがね」などと呼ばれる止水壁の溝が南堤で一条、北堤で6条、東堤で2条発見された。溝は幅約0.5m程度で、大

半は地山に達していない。溝の埋め土は細かいシルト、地山粘土を版築状に固めたものなどがある。

今池の堤は下層にも溝を伴った。1区検出の溝は幅約2mのものが二条あり、その間が通路状の高まりになる。2区検出の溝は幅約6m、深さ1.5mである。これらの溝は中世瓦などを少量含むのみで青灰強粘土が上面まで堆積、条里地割りに伴う区画溝と考える。今池は条里地割りの境界に築堤して営まれたものだろう。

さらに、堤の内側にあたる今池堆積土は近世～近代の遺物が多数含まれた。堆積土の一角には焼土・炭・廃材を大量に含む部分があり、戦中の統制陶磁などが確認された。大戦末期の被災廃棄物などが池の埋めたてに使われたと考える。

まとめ

今回の調査は、水みらいセンター内の調査の東南にあたり、古墳時代後期や中世の集落域の広がり確認できた。また、今池堤の下層から発見された井戸出土肥前磁器は大和川付け替え(1705年)以降のものだった。今池拡張時期の実態を知る上で興味深い。

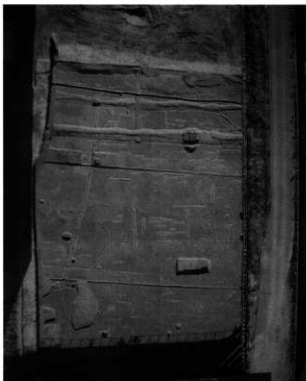


図19 1区全景

久宝寺遺跡 (08011)

- (1) 八尾市龍華2丁目地内
 (2) 寝屋川流域下水道整備「竜華水みらいセンター」
 (3) 松岡良憲

はじめに

久宝寺遺跡は八尾市の北西部に位置し、南北1.6km、東西1.8kmで約3平方キロメートルの拡がりを有する弥生時代から中世にかけての遺跡である。南は跡部遺跡、西は大阪市所在の加美遺跡と接している。この3遺跡は弥生時代中期から古墳時代前期頃の墳墓群や準構造船・銅鐸などの遺構・遺物で特筆すべきものが多く、同時代の河内平野の中では非常に注目される地域である。

今回の調査は、平成12年度から平成16年度に(財)大阪府文化財センターが実施した竜華水環境保全センター水処理施設建設の事前調査に続く、附帯施設の建設に伴う事前調査として実施したものである。



図20 調査位置図

調査成果

1区

水処理施設の南東端に位置し、共同溝建設の事前調査として実施した東西幅約5m、南北長約30mの細長い調査区である。現地盤高はTP8.4mで、1面がTP7.0m付近であるため、この1面付近まで機械掘削を行い、最終遺構面としたTP4.9m付近の8面まで人力による調査を実施した。この調査区では弥生時代前期以降の遺構・遺物を検出しているが、中でも2点特筆されるものがある。まず、古墳時代前期に掘削された東西に直線的に延びる幅約8m、深さ約4mの溝と、この溝北岸に堤跡を検出し、堤の構造に「敷葉工法」が用いられていることを確認したことである。

今一つは、この溝が氾濫堆積により埋没した後地を利用して、径5~6mの円形に掘り窪め、貯木施設とし、木製品・木材が遺存した状態を検出した

ことである。何れの事例も同時代の発見例としては類例の少ない貴重なものである。

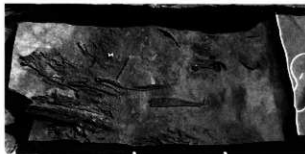


図21 貯木施設跡

2区

水処理施設の南西端に位置し、受電設備建設の事前調査として実施した東西約12.5m、南北約9mの調査区である。現地盤高はTP8.4mで、1面がTP7.0mであるため、この付近まで機械で掘削を行い、最終遺構面とした13面のTP4.1m付近まで人力による調査を実施した。この調査区でも弥生時代前期以降の遺構・遺物を検出しているが、3点特筆されるものがある。まず、奈良時代後半の溝による区画と掘立柱建物等で構成される遺構群を検出している。次に、以前の調査で検出している久宝寺44号墳の周壕と外堤の一部を検出し、この古墳の後方部の形状を確認したことである。今一つは、この外堤の下で検出した竪穴式建物状の遺構、人の埋葬跡、土器集積等の遺構・遺物である。集落の一部と考えるよりは葬送に係わる可能性が指摘出来るものとして重要である。

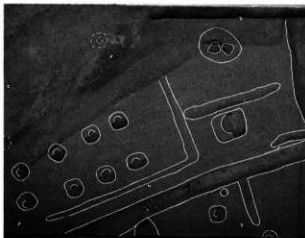


図22 奈良時代遺構検出状況

てらだ

寺田遺跡 (08012)

- (1) 和泉市寺田町
- (2) 府営和泉寺田住宅(建て替え)建設工事
- (3) 土屋みつほ

はじめに

寺田遺跡は、和泉市北西部に所在し、松尾川右岸の段丘上に位置している。既往の調査により、弥生時代中期後半から古墳時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、流路跡のほか、中世の溝などが発見されている。今回の調査は、平成19年度の調査区の隣接地に、幅2～4m、長さ約120mの調査区を北西―南東方向に設定して実施した。

調査の概要

遺構面は、3面確認した。

第1面では、北東―南西方向の溝を3条検出した。溝の上辺幅は0.2～0.3m、深さは約0.1mである。このうち1条は、平成19年度の調査区において第1面(中世)で検出した溝に連続するものと推定できる。遺構から出土した遺物は土器の小片のみであるが、平成19年度の調査成果より、中世の耕作に伴う遺構と考えられる。

第2面では、溝1条と、直径0.3～0.4mのピットを検出した。遺構からの土器の出土はなかったが、土層観察より平成19年度調査区の第2面(庄内並行期から古墳時代前期)に相当すると考えられることから、同時期の遺構である可能性が高い。

第3面では、竪穴住居跡1棟、溝のほか、土坑、ピットを検出した。遺構出土の土器はいずれも弥生時代中期後半に位置付けられる。竪穴住居跡の形状はおそらく円形で、直径は6m以上である。住居跡内からは、壁溝2条、土坑2基、柱穴3基を検出した。土坑は2基とも底部近くに凹状に炭層が堆積している。竪穴住居跡の床面は少なくとも2回の張り直しがなされており、それに伴う壁溝、土坑の掘りなお

し、柱の建て替えが確認できた。

まとめ

今回の調査では、中世、庄内並行期から古墳時代前期、弥生時代中期後半の3面の遺構面を確認した。このうち第1面、第2面の遺構は北西側に、第3面の遺構は南東側にそれぞれ集中して検出された。こうした遺構分布は隣接する平成19年度調査区と同じ状況である。

一方、今回の調査では、第3面で検出したのは弥生時代中期後半の遺構のみで、平成19年度調査区で確認した弥生時代後期の遺構、遺物は見つかっていない。これまでの調査で、弥生時代と古墳時代で生活域が異なっていることが判明していたが、今回の調査により、弥生時代の中でも、時期により生活域が変遷していることが明らかになった。



図24 第3面竪穴住居跡(北西から)



図23 調査区位置図 (S=1/10000)



図25 竪穴住居跡内土坑土層断面(南西から)

衣ヶ谷古墳 (08013)

- (1) 岸和田市三ヶ山町地内
- (2) 一般府道春木岸和田線整備
- (3) 橋本高明

平成20年5月岸和田市内の道路工事現場から「山を重機で削っていたら、大きな石が出てきて石室のようになっている。」との通報があった。急いで現地を確認したところ、まさしく古墳の「横穴式石室」の天井石が露出していて中は空洞であった。一旦工事を中断し、急ぎよ発掘調査を実施することとした。古墳は、地元岸和田市教育委員会と協議の結果『衣ヶ谷古墳』と命名した。

古墳は、北東から南西にのびる丘陵の南側斜面を切り盛りして造成した平坦面上に造られている。

調査の結果一辺10m程度の比較的小さな方墳で、主体部は南東に開く横穴式石室（無袖）を有する7世紀初頭に造られたものであることがわかった。

石室の全長は約6m、奥壁近くの床幅は1.1m、高さは1.2m、天井石は6枚で、石室の石材は大半が地元で産出する花崗岩を用い、一部砂岩（川原石）を積んでいるが、羨道部は内側に崩れている。玄室部分の床面は平坦であるが、羨道部分の床面は入り口に向かって緩やかに傾斜している。

副葬品として須恵器（杯身、杯蓋、高杯、壺）、土師器（杯身、杯蓋）、他には釘、耳飾（金環）が出土した。



図26 位置図



図27 石室（玄室・奥壁）



図28 石室（羨道）

千里丘遺跡 (08014)

- (1) 摂津市千里丘1丁目
- (2) 都市計画道路千里丘三島線整備
- (3) 小川裕見子

はじめに

千里丘三島線道路改良事業及びJR千里丘駅前再開発に伴い、JR千里丘駅東口と西口とを線路をくくって結ぶ小坪井架道橋の拡幅工事が行われている。この遺跡ではこれまでに、平成17年度は当該道路の北側、JR線路西脇を200㎡、平成18年度はその西側に隣接する178㎡、平成19年度はさらに西側を157㎡に渡って調査をおこなった。

これまでの調査では、耕作の痕跡と柱穴を中心に、近世以降、中世、古代以前の3つの遺構面で遺構・遺物を確認した。また、平成17年度調査においては、縄文時代のものと思われる地層より130点余りのサヌカイト製石器の集積を検出した。

また継続的な調査の結果、当初は調査箇所のみ点的に登録されていた千里丘遺跡群が同一の性格をもつことがわかり、平成18年度調査の後に、遺跡の範囲拡大をおこない千里丘遺跡として改めて登録

された。今回報告する平成20年度調査区はこの西端に位置する。また、平成18年度の修正時には、周知の遺跡範囲に本調査区の西側は含まれていなかったが、発掘調査に先立って実施した試掘調査の結果、一部を除いて遺構の広がりが確認されたため、遺跡の範囲拡大を再度おこなった。

調査の概要

平成20年度の調査もこれまでの調査と同様に、耕作の痕跡と柱穴を中心とする遺構を検出した。出土遺物は少ないが、中世の遺構面を中心に、陶磁器・瓦器・土師器・須恵器が出土した。

遺構が検出された文化面は主に3面存在し、各々①近世、②中世Ⅰ(12～14世紀頃)、③中世Ⅱ(10～12世紀頃)における耕作・建物の痕跡を中心とした遺構を検出した。東側の調査区と比較して、地山が西へいくほど上昇しており、地山上で検出した遺構も出土遺物から推定して、中世に属するものであった。特に、時代が遡ってからの中世Ⅱの遺構面においては、主だった遺構はほぼ東西方向の鋤溝群のみであった。また、各々の時代を特徴づける陶磁器・瓦器・黒色土器・須恵器・土師器などの遺物が出た。須恵器や土師器の中には、古代以前に遡るものも出土したが、それらは中世における耕作の際に巻き上げられたものであり、それらに伴う遺構は既に削平され、確認できなかった。また、調査前に存在していた建物の基礎が一部深い部分もあり、攪乱が著しい箇所も存在したため、以前と比べて検出遺構・出土遺物ともに少ない調査であった。

まとめにかえて

平成20年度調査地は交差点に隣接しており、赤信号の待ち時間などに通行人が調査の様子を覗き込む様子がしばしば見られた。このため、調査状況の速報的な情報を出土遺物の写真とともに調査区を開く外壁に掲示し、遺跡の周知をはかった。また、この調査をもって当該事業に伴う千里丘遺跡の調査は終了した。道路改良事業の本体工事とともに長期にわたって継続した工事であるため、その間に近隣住民に文化財の存在及び文化財調査の必要性に関する認識が広がったように感じられる。今後は、工事に伴い不便をも被った近隣住民に、本調査成果の還元方法を探りたい。



図29 第5遺構面 鋤溝群 東から

難波宮跡(08015)

- (1) 大阪市中央区森ノ宮中央2丁目
- (2) 府立青少年会館用地売却
- (3) 藤澤真依

大阪府立青少年会館用地売却に伴う遺跡の確認調査である。史跡難波宮跡の東に道路を隔てて面しており、道路部分が崖面になっていた。道路部分は昭和46年に大阪市により調査が完了している。そのときの調査では難波の宮に関連すると考えられる柱跡等が検出された。青少年会館の用地内でも過去に2度の調査が行われており、大阪城に關係する堀跡や江戸時代の井戸が検出されている。

今回は会館の西北にA区、南側にB1～3区の4調査区を設定した。

A区現標高はTP.+19.5m、遺構検出面は西端でTP.+18.5m、東端でTP.+16.8mを測る。西側から東側にかけて、灰色土、灰褐色土、赤褐色土などが斜め方向に堆積しており、江戸時代の瓦が少量出土した。江戸時代の整地埋め土と考えられる。

B区は幅2m、延長19.5mを測る。B区の現標高はTP.+18.3mを測る。B-1区南辺とB-2区西端では石垣を検出した。石垣上面の標高はTP.+17.9mを測る。B-2区からB-3区では堀跡を検出した。TP.+15.6mまで掘削したが、底部の確認はできなかった。灰黒色粘土・黒色粘土が厚く堆積しており、江戸時代の陶磁器が多量に出土した。堀跡の上層ではレンガ積みの旧陸軍建物基礎を検出した。堀の埋土中層あたりまでレンガ等が出土することから、旧陸軍建物が建築される直前まである程度堀としての機能を有していたと考えられる。

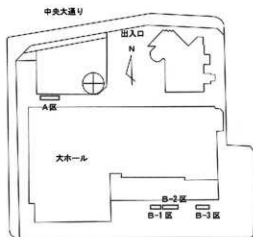


図31 調査区配置図



図32 Aトレンチ (西より)



図33 Bトレンチ (東より)



図30 調査地位置図

山城廃寺(08016)

- (1) 南河内郡河南町大字山城宮前 地内
- (2) 府営ため池等整備「山城新池地区」
- (3) 杉本清美

はじめに

河南町大字山城宮前に所在する「山城新池」における府営ため池等整備事業(南河内農と緑の総合事務所)に先立ち、昨年度に引き続き山城廃寺の発掘調査を実施した。今年度は、「山城新池」の東堤体部(南北約75m)で、調査区を4区とした。調査面積は約270㎡を測る。

調査成果

今回の調査では、主に奈良時代から平安時代頃の建物ピットと溝、古墳時代以前に相当する溝や不定形な落ち込みなどを検出した。

現堤体の盛土及び旧耕土層を除去すると、調査区中央部付近で、東西方向に延びる耕作溝跡を数条検出した。埋土内からは、土師器羽釜、皿、杯、黒色土器碗などの細片が出土した。調査区の北半部では、検出径0.2～0.5mを測る数多くのピットと土坑、溝などを検出した。概ね、南北方向に並ぶ建物ピット列を確認することができた。ピット内からは、土師器杯、皿、羽釜などの細片が出土した。溝は、南北方向に直線的に伸び、さらに東側へ折曲するもので、検出幅1.0～1.2mを測る。埋土内からは須恵器杯蓋、土師器片などが出土した。

調査区の南半部では、地山直上面で東西方向に延びる深い溝や大型の不定形な落ち込みなどを検出した。遺物が含まれないため時期は確定できないが、古墳時代以前に相当するものとみられる。

このほか、「山城新池」が築造された頃のハガネ部を確認することができた。「山城新池」は、石川東側の河岸段丘に続く丘陵地帯に位置し、古くから水利が困難なところであったため、明治27年に新たに築造された池である。昭和28年には、さらに北側に拡張し現在の池の形となっている。堤体の構造を垣間見ることができた。

まとめ

調査の結果、奈良時代から平安時代に相当する集落域が南側に広がることが確認できた。また、「山城新池」築造以前の旧地形が起伏に富んでいたものであることがわかった。

山城廃寺周辺では、これまでに建物の礎石や白鳳時代の瓦片などが採集されている。発掘調査の成果をふまえ、古環境の復元に努めたい。



図34 山城廃寺周辺の遺跡

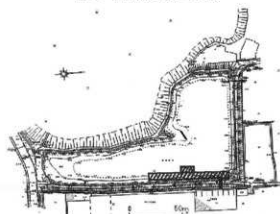


図35 調査区位置図



図36 山城廃寺4区全景(北から)

かなおか

金岡遺跡 (08017)

- (1) 堺市北区金岡町
- (2) 府立金岡高校下水道放流切替え
- (3) 藤沢真依

金岡遺跡は、高校新設前の昭和48年に発掘調査を行っており、弥生時代から中世までの遺物を出土するが、古代から中世の集落跡である。

今回は、建物跡の検出された高校西部を中心に2m×2mの調査区4箇所、1.4m×1.3mの調査区1箇所と2m×2mの調査区をつなぐように幅1.0～1.5mの管路部分を延長約100m、合計140mを調査した。遺構は柱穴・溝・土坑等を検出し、古代から中世の遺物を出土した。

管路部分は体育館とプールの間を西から東にのび、さらにプールの東端で南に屈曲する。調査地の標高はTP.+32.2m、遺構検出面の標高は31.0～31.3mを測る。前回の調査でプールと体育館部分で建物が8棟検出されており、今回も1辺0.5～0.6mの隅丸方形の柱穴を検出した。ただ調査区幅が狭いため建物規模は確認できなかった。溝状の落ち込みは数条検出され、前回の調査結果に非常によく似ているが、前回報告されていた弥生土器・埴輪等は出土せず、飛鳥時代から鎌倉時代の遺物を出土したが、完形品は7世紀後半の杯蓋が1点出土しただけである。



図37 調査地位置図

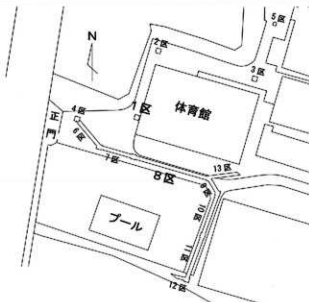


図38 調査区配置図 (1/1500)

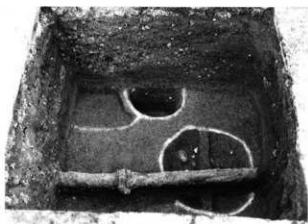


図39 1区遺構検出状況 (西から)



図40 8区遺物出土状況 (西から)

倉治遺跡 (08018)

- (1) 交野市倉治1丁目地内
- (2) 第二枚方警察署(仮称)建設
- (3) 小林義孝

はじめに

倉治遺跡は免除川が形成した扇状地とそこを開析した谷地形に展開する。この遺跡は早くから遺物の散布が知られていたが、ほとんど調査の事例がなく、その実態は明らかでなかった。

2005・2006年度に近接して建設される第二京阪道路へのアクセスとして計画された主要地方道枚方大和郡山線の予定の発掘調査を(財)大阪府文化センターが実施した。ここでは古墳時代の区画遺構が検出され、開析谷からは古墳時代から中世にわたる多数の遺物の出土をみた。今回の調査区はその西側に当たる。

調査方法

建築予定地(約3700㎡)に2箇所(60m×1m、10m×2m)の調査区を設定し、機械および人力により、土層の変化、遺構・遺物の有無、およびその検出深度の確認を行った。



図41 調査区的位置 (S=1/15000)



図42 遺物包含層検出状況

調査結果

現代の耕作土と耕作地造成時の盛土(合わせて約30cm)を取り除くと古墳時代から中世の遺物を含む土層(遺物包含層)が確認できた。当該予定地は東から西にわずかに傾斜しているため遺物包含層は東側で薄く、西側で厚い。平均して25cm前後を測る。

トレンチの全域から土坑、ピット等の遺構が検出された。遺構の埋土の土質と色調に差異が認められ複数の時期の遺構が重複していると推測される。遺物包含層や遺構の上面からは、古墳時代の須恵器、中世の土師器などが出土しており、これらが遺構の時期を示すものと考えられる。

まとめ

当該予定地における確認調査においては、遺構・遺物が確認された。事業の実施にあたっては、発掘調査が必要であると判断された。



図43 調査区全景(西から)



図44 調査区全景(東から)

いずみでらあと ふちゅう
和泉寺跡・府中遺跡 (08019)

- (1) 和泉市府中町4丁目
- (2) 都市計画道路大阪岸和田南海線整備
- (3) 土屋みづほ

はじめに 今回の調査地点は、平成17年度、18年度の試掘調査により遺構、遺物を発見し、和泉寺跡、府中遺跡の範囲拡大を行った箇所である。北東—南西方向に幅約20m、長さ約60mの調査区2本を設定し、調査を行った。以下では、それぞれ北東区、南西区と呼称する。両調査区すべてが府中遺跡内に、南西調査区の一部が和泉寺跡内に該当する。**調査の概要(北東区)** 北東区では、遺構面を3面確認した。

第1面では、北西—南東方向および北東—南西方向の溝を検出した。遺構内からは瓦器、土師質土器などが出土した。中世の耕作に伴う溝と考えられる。

第2面では、直径0.4～0.5mの不整形形の柱穴、ピットを検出した。遺構内からは、瓦器、土師質土器などが出土しており、中世前期に位置付けられる。

第3面では、溝、土坑、ピットを検出した。遺構内から出土した土器は小片のみで、詳細な時期は不明である。ベース層および遺構面直上の包含層出土遺物より、古代から中世前期に位置付けられる。

第3面のベース層以下を除去すると、砂礫層を検出した。砂礫層上面は、南西側に向かって約1m落ち込み、調査区南西端で立ち上がっており、自然流路跡と考えられる。砂礫層の直上層は須恵器、瓦など古代の遺物を含んでいることから、この時期以降に埋没したと考えられる。

調査の概要(南西区) 南西区では、遺構面を2面確認した。

第1面では、北東区第1面と同様の溝を検出しており、同じく中世の耕作に伴うものと考えられる。

第2面では、3棟の掘立柱建物跡のほか、井戸、溝、



図45 調査区位置図 (S=1/10000)

土坑、柱穴、ピットを検出した。柱穴は一辺0.3～0.6mの不整形形である。遺構内からは、瓦器、土師質土器などが出土しており、中世前期に位置づけられる。

第2面のベース層以下を除去すると、砂礫層を検出した。砂礫層上面は、南西側に向かって約1m落ち込み、調査区南西端でやや立ち上がっており、自然流路跡と考えられる。砂礫層の直上層は弥生時代後期後半から庄内並行期の土器を含んでいることから、この時期以降に埋没したと考えられる。自然流路跡内では、弥生時代後期後半から庄内並行期の土器が多く出土し、ほぼ完形の土器がまとも出土した箇所もある。人為的におかれたものである可能性が考えられよう。

まとめ 和泉寺跡は、古代寺院として古くから知られてきた遺跡である。今回の調査では、寺院と直接関係する遺構の発見はなかったものの、古代の瓦、須恵器などが出土していることから、周辺に該期の遺構が存在する可能性が考えられる。また、府中遺跡についても、これまであまり調査がなされていなかった遺跡の南東部において、中世の建物跡、弥生時代後期後半から庄内並行期の大量の土器の出土など、新たな知見を得ることができた。



図46 南西区第2面(南西から)



図47 南西区自然流路土器出土状況(東から)

鳩原遺跡・川上神社遺跡(08020)

- (1) 河内長野市鳩原
- (2) 府営農村振興総合整備「河内長野和泉地区」
- (3) 小山田宏一

はじめに

鳩原遺跡・川上神社遺跡は、石見川の河谷にある中世以降の遺跡である。標高は約240～292m。調査は、圃場整備予定地内に43箇所の調査トレンチ(2×2m)を設置した。

調査結果

圃場整備予定地のほぼ全域に、中世の耕作地が広がっていることを確認した。この調査結果をうけて、平成21年3月31日付けで、新たに鳩原東端遺跡、鳩原西端遺跡、奥田井遺跡の3遺跡が周知されるに到った。また鳩原遺跡は、国道310号線を越えて東に拡大し、遺跡範囲の東端が川上神社遺跡に接するようになった。

基本層序は、現代耕作土、近世耕作土、中世耕作土、土石流堆積である。中世耕作土は土石流堆積を攪拌して形成したもので、畠地と田地がある。

鳩原遺跡内から、中世の集落遺構を検出した。検出地点は、川上神社遺跡の西の高台に設定した調査

トレンチ10・11、石見川の段丘崖に近い調査トレンチ19である。

調査トレンチ10・11は、柱穴群を検出した。柱穴は最大規模で0.7m四方である。柱穴の埋土から、鎌倉時代の土師器小皿と瓦器椀が出土した。調査トレンチ19は、近世の耕作土から多量の中世土器片が出土した。近くにあった中世包含層が客土されたのであろう。

まとめ

この鳩原地区は、以前から中世観心寺の荘園の所在地として知られていた。今回の確認・試掘調査によって、当地には、文書から知られる荘園の経営年代に矛盾しない集落遺構と耕作地が広がっていることが判明した。

現耕作地と中世耕作土の分布は、かなりの確率をもって重なり、鳩原地区の景観は、中世からさほど変わっていないものと考えられる。



図48 河内長野市鳩原地区



図49 川上神社西の張り出し



図50 鳩原遺跡の柱穴群

せりゅうたに

芹生谷遺跡 (08021)

- (1) 南河内郡河南町中地内
- (2) 一般国道309号(河南赤阪バイパス)整備
- (3) 上林史郎

はじめに

芹生谷遺跡は、平成19年、試掘調査によって新たに発見された遺跡である。

今年度の調査は、道路敷き東側の擁壁部分と水路部分の発掘調査である。

調査区は、幅1.2m、長さ290mと、町道北側の横断水路部分幅2m、長さ21mの合計約610㎡である。

なお、本調査区の東南部に接して、国史跡金山古墳が立地している。金山古墳は、段丘先端に築造された全長86mの双円墳であり、北丘には大型横穴式石室が開口し、玄室と羨道には形式の異なる家形石棺が一基づつ納められている。6世紀後葉の築造が想定される。

調査の成果

今回の調査では、細長い調査区にもかかわらず、さまざまな成果が得られている。

本遺跡周辺は、金山古墳以外では調査例がなく、初めての平野部の調査にあたる。予想通り、古墳時代後期の柱穴群が三ヶ所で検出されており、規模はわからないものの、掘立柱建物の存在が想定される。

また、鎌倉時代の柱穴や大規模な落ち込みも検出されており、良好に坪割が遺存している本地域の条里制を解明する資料となる。



図51 古墳時代柱穴群(南から)



図52 鎌倉時代大落ち込み(南西から)

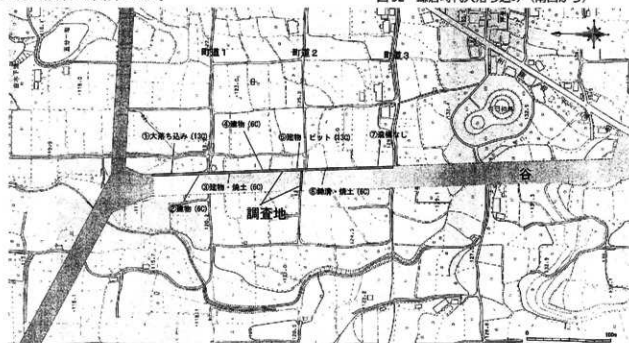


図53 調査区位置図

禁野本町遺跡 (08024)

- (1) 枚方市禁野本町2丁目
- (2) 都市計画道路枚方藤坂線整備
- (3) 横田 明

はじめに

禁野本町遺跡は、枚方市中央部に位置する。弥生時代から中世にかけての複合遺跡であり、禁野本町、中宮北町、中宮本町、御殿山南町にかけて広がっている。今回の発掘調査は都市計画道路枚方藤坂線整備事業に伴う事前調査であり、平成19年度にひきつづくものである。調査対象は禁野本町2丁目、枚方市民病院の西側で、市立保健センターの南側の地点であった。

調査成果

本調査区は天野川の右岸、交野台地の西端部分にあたる。調査地点は台地の段丘崖にかかり、段丘直下の低地とは約20mもの比高差がある。対象地は延長約60m、幅数mの細長い道路敷地で、敷地内には斜面を造成したことによる段差が顕著であり、

東から幅20m、15m、15mの3本のトレンチを一直線にならべるように設置した。

実際に調査をしたところ地表から50～1m下まで近年の造成に伴う造成土であり、その下からは赤褐色の段丘の構成土が露出した。しかしながら、顕著な遺構、遺物は発見できなかった。

まとめ

今回の調査地点は既存の府道の横であり、台地上から下におりる坂道の途中にあたる。道路を設置する際にすでに大規模に削平されたようである。しかしながら、今回調査区のすぐ北側の保健センター地点では平安時代のまとまった遺構が発見されている。本来は、禁野本町遺跡の最も西端にあたる遺構群が存在したものと思われる。



図54 位置図



図55 調査区位置図

池内遺跡 (08027)

- (1) 松原市天美東2丁目・4丁目
- (2) 都市計画道路大阪河内長野線整備
- (3) 服部 文章

調査は、都市計画道路府道大阪河内長野線建設予定地の内、現在建設工事が進められている阪神高速道路大和川左岸線の南側から府道堺大堀線に至る間、延長約400mを対象として実施した。道路建設予定地は幅員約35mを測るため、道路延長に沿って東西両サイドに幅約2mのトレンチを設定することを基本として実施した。対象区域の中央南側付近には、上之池と呼ばれる溜池が存在する他、現道や水路等が存在するため、調査区はそれらによって分断され、北端の西側調査区を1区、東側調査区を2区、市道を挟んで上之池までの間の西側調査区を3区、東側調査区を4区、上之池南側から府道堺大堀線までの間の西側調査区を5区、東側調査区を6区として実施した。各調査区においても小規模な水路等を存置する必要がある部分については、調査区を分割してトレンチを設定して実施した。

調査は、重機により盛土及び現代耕土等を除去し、遺物包含層の有無等を慎重に判断しつつ下位の層位について人力により掘削し、遺構・遺物の有無を確認すべく土層断面の精査を行った。また遺構面が確認された部分では遺構検出を行い、検出された遺構については、掘削は行わず検出状況の実測及び写真撮影を行うにとどめた。

調査の結果、現状において池内遺跡として周知されている1区・2区の区域では、古代から中世にかけての集落遺跡や耕作に伴う遺構が、現耕土及び床土層直下で顕著に遺存することが確認された。

3区・4区では集落域の南限付近を西北西から東南東方向に開削された大溝が検出されるなど、現在の周知範囲の南側へ遺構及び遺物包含層の遺存する遺跡範囲が広がることが確認された。

この大溝は、上部の幅約3mを測り、2段掘り状に開削されており深さは約80cmを測る。遺物は検出されなかったため開削時期や埋没時期については不明であるが、堆積状況や層位からみて古代以前に遡る可能性が高い遺構と判断される。

上之池の南側に当たる5区・6区の区域では、顕著な中世(13世紀頃)の遺物包含層が確認され、その下面では溝などの遺構を伴って当該時期の水田遺構等が遺存することが新たに確認された。しかしながら5区・6区の区域で新たに発見された遺構・遺物包含層は、上之池を挟んでこれまでに周知され

ている池内遺跡とはやや異なった堆積とほぼ13世紀前後に限定される出土遺物で構成されており、周辺における既存の遺跡とは分離して捉えられるべき様相を示している。

なお上之池の区域に関しては、今回は試掘調査を実施していない。今後、既存のボーリング調査データ等を参考にしつつ、3区・4区の区域と5区・6区の区域の間に遺構面・遺物包含層が遺存する可能性の有無について慎重に判断する必要が残されている。



図56 調査区配置図



図57 3区大溝断面

かみ
加美遺跡(08030)

- (1) 八尾市西久宝寺～大阪市平野区加美東6丁目
- (2) 久宝寺緑地橋梁整備
- (3) 宮崎泰史

はじめに

加美遺跡は、大阪市平野区加美東を中心に広がる縄文時代晩期から中世にかけての大規模な複合遺跡である。今回の調査は久宝寺緑地内の東西方向の用水路にかかる橋梁(5番出入口橋)整備(防災用橋梁築造)に伴う事前調査である。過去においては久宝寺緑地橋梁整備工事については2004年度に二カ所(A区・B区)で実施している。一連の調査ということで、調査地点をC区と呼称する。C区はB区の北約100mの地点である(図58)。

調査の概要

調査は、北側に歩道があるためL字形に鋼矢板を打設し、その後現川床面および北・南護岸のコンクリートのはつり作業をおこない、機械で盛土を除去した後にT.P.+4mまで人力掘削を行った。基本層序はB区西壁とほぼ同じ土層の堆積を示しているが、A区・B区と同様に中央部に現在の用水路が流れているため、古墳時代の面まで破壊が及んでいた。また、南側および北側の護岸部分についても想像していた以上に改良が加えられていたため、第1層～第3層は部分的に確認されただけで、平面

的な調査は不可能であった。

調査によって第5層上面で南東から北西方向の畦畔(図59)二条、そして水田面を覆う氾濫堆積土の第4層(オリーブ灰色粗砂)中から古墳時代前期(布留式)の高環・甕形土器などが出土した。第6層(緑灰色シルト～灰色砂)及び第7層(暗オリーブ灰色粘土)中からは遺物は出土していない。なお、第5層上面のレベルは4.7～4.8mで、層中より古墳時代前期(布留式)の甕形土器が出土している。

まとめ

第5層上面で検出した水田畦畔の時期は前回のB区での調査では出土遺物から遺構の年代を決定することが出来なかったが、今回の調査で水田面を覆う氾濫堆積土および耕作土中から出土した土器から、古墳時代前期(布留式)であることが明らかとなった。また、古墳時代前期においては、周辺での大阪市文化財協会の調査例から調査地の西側一帯は水田域として利用していたことが想定されているが、今回の調査によって、生産域がさらに東に広がるということが明らかとなった。

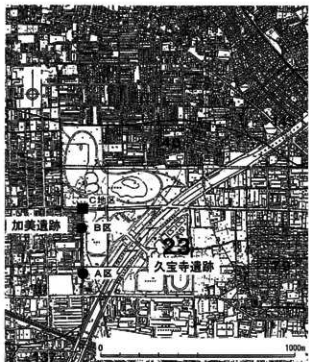


図58 調査区位置図



図59 第5層上面(北半部) 畦畔(南から)

たじり

田尻遺跡 (08034)

- (1) 泉南郡田尻町吉見地内
- (2) 一般府道新家田尻線歩道設置
- (3) 中野篤史 (田尻町教委)、橋本高明

田尻遺跡は、田尻町の中央部の標高5～7mに位置する弥生時代から近世にかけての複合遺跡である。

これまでの調査では、弥生時代から奈良時代の溝や近世から近代にかけての粘土採掘坑などの遺構が検出されている。また、弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・陶磁器・瓦等の遺物が出土している。

今回の調査は、一般府道新家田尻線歩道設置工事に伴う発掘調査である。調査は大阪府教育委員会と田尻町教育委員会で発掘調査に関する協定書を締結し、共同調査として実施した。

調査面積は約120m²である。検出した遺構は、大溝のほか近世井戸1基、近世～近代の粘土採掘坑等である。遺物は包含層より土師器、須恵器、瓦器等の破片が出土している。

今回、調査区の南部で検出した大溝は東西方向の流路で、推定される溝の幅は約15m、溝の南部での深さは約80cm、北部での深さは約2mを測る。溝の南部が浅く北部が深いことから蛇行する流路であり、今回検出した部分は北に湾曲している部分であると思われる。溝の埋土には灰色系の粘土が堆積し、砂層の堆積はほとんどみられなかったことから、一時的に流路が蛇行したのち上流部で流路が変わり取り残されて徐々に埋まったものと考えられる。最終的に埋没した時期は不明であるが、灰色粘土中より瓦器片が出土していることから中世の段階ではまだ完全に埋没していなかったと思われる。



図60 調査地点位置図 (1/5000)



図61 溝検出状況

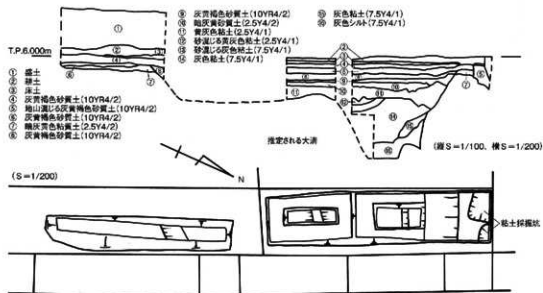


図62
大溝平面図
土層断面図

平野屋新田会所跡 —江戸時代の農業経営の姿を残す—

はじめに

平野屋新田会所跡は大東市平野屋1丁目315番地に所在する。残念ながら現存していた建物については、平成20年1月～2月にかけて行われた所有者による解体工事ですべて消失してしましたが、建物の礎石や庭園等は、遺構として遺存しており、大東市教育委員会は岡庫補助事業として、遺存状況の確認調査を平成20年5月9日から同年6月13日に実施した。本府教育委員会は大東市教育委員会の依頼により、この確認調査の実施に協力した。調査の結果上屋解体工事で瓦礫が散乱した状態になったにもかかわらず、建物基礎や庭園等が遺構として比較的良好に遺存していることが確認できた。以下、確認した遺構の状況を紹介する。

1. 建物跡

主屋・座敷棟（おもや・ざしきどう）

東西方向棟行約31m、南北方向梁間約15mの東西に長い建物である。当初は主屋棟と座敷棟が別棟であった（平成14年3月の土屋建物調査報告）と考えられており、今回の発掘調査においても棟行7間・梁間5.5間の主屋棟、棟行6.25間・梁間4.5間の座敷棟が、幅1間・長さ2間の「渡り部」で繋がっていたと推測される礎石配置を検出した。この渡り部はその後、前後に玄関・中の間・茶の間を増築し、渡り部自体は押し入れ・床等に改築されたものと考えられる。年代としては平成14年3月の報告にあるように、発見されている棟札より座敷棟は、明治25年（1892年）の上棟とされ、主屋棟はこれ以前、18世紀中頃まで遡る可能性を指摘されている。とすると「大正7年写し絵図」では繋がった一棟の建物として描かれており、明治25年から大正7年の間で増改築され一棟の「主屋・座敷棟」となったものと推察される。次に、検出した主屋棟・座敷棟は使用されている礎石の多くに転用が認められ、また、東石に古い建物のものが残置されたままのものがあることから、前身の主屋棟・座敷棟があったと推察できる。今回の調査においては、主屋・座敷棟の遺構保護からこれ以上の確認作業は実施していない。

表長屋門（おもてながやもん）

東西方向棟行約22.5m、南北方向梁間約5mの建物の西側に前面を揃えて、東西方向棟行約11m、

南北方向梁間約2.5mの部屋を造る。東西約33.5mの長い建物のやや東寄りに扉構えの礎石等を検出した。扉構え東側は三部屋に区切られて、西側も前述の東西に細長い部屋を含めて三部屋に区切られているが、東石等は解体時に失われたと思われ、殆ど遺存していない。ただ、一部で床と思われる板を並べた構造が遺存していた。この長屋門は伝わる話から、昭和9年の室戸台風後再建されたもので、それ以前の長屋門の遺構としては、東端の南北方向の雨落ち溝が花崗岩を並べたものであり、再建時そのまま利用したものと思われる。また、長屋門北辺の門構え西側部分で雨落ちと思われる平瓦を並べた幅20cm程の溝を確認している。また、「大正7年写し絵図」に見られる居宅部分にも礎石が遺存することを確認した。

裏長屋門（うらながやもん）

東西方向棟行約12m、南北方向梁間約4mの建物である。東西の中央に2間幅の扉構えを、その両側に同じく2間四方の部屋を検出した。2つの部屋は南側、屋敷地側に入口を持つ。部屋の東石は、解体に伴い元位置を移動したのがあるが、比較的遺存状況は良好である。この長屋門の記録等は今のところ確認されていないため、いつ頃のものか仔細は不明である。長屋門北面東側には、この門に繋がる高塀の石積みが見え残っており、これを避けて長屋門北面西側で下層確認を実施したところ、布基礎の石の下に、礎石や壁土と思われる粘土塊を確認した。また、扉構え東側の部屋の北面布基礎の石の下にも、礎石の遺存が認められ、下層遺構として、裏長屋門の前身建物の基礎が遺存していると思われる。

土蔵①（屋敷蔵 やしきくら）

主屋・座敷棟の北、裏長屋門の東に位置する東西方向棟行約6.8m、南北方向梁間約5.5mの建物である。花崗岩切り石積み石垣の上に、入口のみ花崗岩で他は凝灰岩の布基礎が比較的良く依存していた。布基礎の内側は、一部の東石と東石の上に直に置かれた根太が一本のみ遺存している。解体時に破損したものである。蔵入口の前には0.5間×2間分の礎石が6箇所遺存している。この屋敷蔵も棟札が発見されており、その記載から、前身建物は享保10年（1725年）のもので、明治26年（1893年）に再建されたことがわかる。石垣や布基礎、蔵

西側の雨落ち溝を見る限りは18世紀前半頃まで遡る可能性がある。

土蔵②(米蔵 こめぐら)

屋敷西北隅に位置する東西方向棟行約22m、南北方向梁間約6mの東西に長い建物である。花崗岩切り石積み石垣の上に、凝灰岩の布基礎が比較的良好に依存していた。内部は東から約6m、約10m、約6mの間隔で布基礎が比較的良好に遺存しており、3室に仕切られていたことがわかる。各室には南面する出入りが設けられており、出入り口前面には角石を用いた斜路を造り付けている。布基礎の内側は、平成16年に不審火により屋根が焼け落ちて壁だけの状態になり、解体時の破損とあわせて、東石や焼けた板材が散乱する状況であった。この蔵については、記録・言い伝え等は確認されておらず、建物の時期は不明である。花崗岩切り石5段積み石垣の上の布基礎に凝灰岩と砂岩が混在することから、18世紀まで遡る前身建物があり、その基礎を再利用して土蔵が立てられていたと推察している。

土蔵③(道具蔵 どうぐぐら)

屋敷西北隅に銭屋川を背にして位置し、米蔵と直角に接する南北方向棟行約11.5m、東西方向梁間約4mの南北に長い建物である。花崗岩切り石積み石垣の上に、凝灰岩の布基礎が比較的良好に依存していた。内部は米蔵のように室を仕切る布基礎は認められなかったが、南北棟行方向の中央で半間幅に3箇所の礎石が有り、壁で仕切られて南北2室になっていたと考えられる。各室には東面する半間幅の出入り口を設けており、出入り口前面に角石を用いた階段を造り付けている。この蔵についても、記録・言い伝え等は確認されておらず、建物の時期は不明である。花崗岩切り石積み石垣の上の布基礎に凝灰岩と砂岩が混在することから、18世紀まで遡る前身建物があり、その基礎を再利用して土蔵が立てられていたと推察している。なお、北室には解体時10数基の踏車(水車)が保管されており、市教委により現在移動して保管されている。

土蔵④(道具蔵?)

屋敷西端中央部に銭屋川を背にして位置する。南北方向棟行約6m、東西方向梁間約5mの建物である。「大正7年写し絵図」には見られるが、他の蔵と異なり建物解体時はすでにほぼ埋没した状況であった。花崗岩切り石積み石垣の上に花崗岩の布基礎が置かれ、布基礎内部は東石が比較的良好に依存していた。建物の東面中央やや北寄りに半間幅の出入口を設けており、米蔵と同様に出入り口前面に角石を用いた斜路を造り付けている。なお、東石の間から農具や工具等の鉄器が出土しており、この蔵

の収蔵品と考えられる。この蔵についても、記録・言い伝え等は確認されておらず、建物の時期は不明である。花崗岩切り石積み石垣の上の布基礎にも花崗岩を多用することから、他の建物と年代的に異なる可能性があるが、仔細は今のところ不明である。

2. 庭園

築山(つきやま)

屋敷地東端、座敷の東側正面に幅6~8m、長さ約35m、高さ1.5~2mで、南北に細長く僅かに湾曲して築かれた「築山①」と、屋敷地南東隅に築山①に1から2m間をあけて直角に幅約8m、長さ約25m、高さ1.5~2mで、東西に細長く築かれた「築山②」があり、庭園の東と南を画している。築山には、配石・灯籠等が遺存していた。座敷から眺めると、借景としての生駒山系と築山①の形状が相似形のようなのである。また、築山②は遠景としてある二上山系・金剛葛城山系に重なる様である。

池・橋

南北に細長く僅かに湾曲して築かれた築山①の西裾に沿うように幅2.5~8m、長さ約30m、深さ0.5~0.8mの池を掘削している。築山の裾、池の東岸は単純でなく、入り組んだ状況を作っている。対する座敷側の池西岸は単純に緩やかな円弧を呈しており対照的である。池の周囲は径30~50cmの礫を1から数段で並べている。池の北側で幅2m程に狭くなったところには、石橋が架けられていたが、現在は壊れていて、石材の一部も失われているようである。橋の基礎は一部壊れてはいるが、池の周囲の石と同様のやや大きめの礫を用いて「崩れ石積み」の技法で造られたものが比較的良好に遺存している。池の南岸やその他の石積みも技法的には同様と考えられる。

流れ(流れ跡 ながつくばい)

座敷の北東隅から池の西岸中央部に向けて岩を配し拳大の礫を敷いた長さ20m程の「流れ」を造っている。座敷の北東隅に岩で囲まれた部分があり、三和土と礫で造作しており、何かを掘っていた痕跡が認められる。跡の様なのが洒かれていたと推察している。

3. 外周施設

濠

「大正7年写し絵図」等で会所屋敷は西側の北流する銭屋川(ぜにやがわ)に接しており、残る東・北・南の3方に濠を廻らしていたことが知られている。北側に残る水路が北側の濠跡と推定されていたが、東及び南側は痕跡を残していないため、各1ヶ所トレンチを掘削して現地表下に遺存していることを確認した。長時間掘った状態で作業できないため、

今回は有無の確認に止めざるをえなかった。
堀

漆等で屋敷地を画しており、漆の内側に高堀等を築いていたと考えられるため、その有無の確認を行ったが、調査箇所を確保できたのが西側の銭屋川部分と北側の石垣の一部が残る範囲及び裏長屋門付近だけであり、東・南側では実施できなかった。銭屋川に面しては、まず石垣を川に面して築き、約1m程の犬走りを設けて花崗岩間知石を積んで上面に幅60cmの平坦面をもつ高堀基礎を検出した。裏長屋門付近でも門屋東隅から延びる花崗岩間知石を積んだ同様の高堀基礎を検出した。また、下層遺構と思われる類似の高堀基礎を検出した。石垣が残る部分の上面については、幅60～80cmの犬走り上の平坦面を確認した。

4. その他

船着場

土蔵③（道具蔵）の南西隅に接して設けられていることが「大正7年写し絵図」等から知られていたが、すでに消失したものと思われていた。掘削してみると角石を用いて幅約2mで階段状に作られた遺構が遺存しており、石段は10段

まで確認でき更に銭屋川に向かって遺存している可能性がある。階段最上段の東に接して門が設けられていた様である。

船入り？

裏長屋門の北側で、東西方向の北濠がやや北に角度を変えて銭屋川に繋がっているところが認められる。大半が今回の調査対象地外になるため、発掘して確認することは出来ないが、銭屋川までの延長約25m程が幅もやや広がっており、銭屋川と直角ではなくやや鈍角に繋がるのは下流からの船を引き込むためではないかと考え、踏査した限りでは船入りと推測している。



図 63 遺構検出状況（空撮）

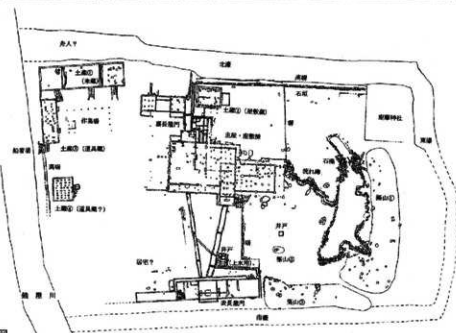


図 64 遺構検出状況概略図

新上小阪遺跡・呉竹遺跡出土礎板

はじめに

東大阪市域に所在する新上小阪遺跡（東大阪市新上小阪）及び呉竹遺跡（同下小阪）の2遺跡の調査において、木製品を転用した礎板が柱穴より出土した。共に、既刊の報告書においては紙面の都合上報告できなかったため、こあわせて資料紹介をおこなう。

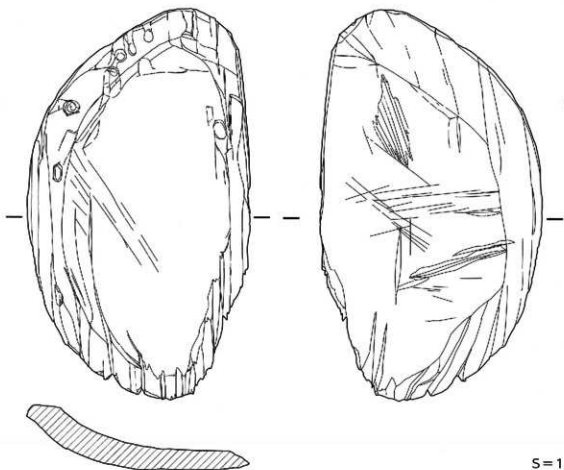
出土礎板について

新上小阪遺跡の調査は府営東大阪新上小阪住宅建て替えに伴い平成15年度に実施した（調査番号03022）。耕作の痕跡と掘立柱建物群の屋敷跡を中心とする遺構が見つかった。掘立柱建物群は、8世紀後半～9世紀後葉にかけて、3時期に分類することができる（註1）。図65の木製品は、この第3期（9世紀頃）にあたる、第4遺構面Aの柱穴P204（図65-1.2）・P240（図65-3）から出土した共通材を用いた礎板であり、各柱穴が同一時期につくられたことを示している。

呉竹遺跡の調査は布施警察署庁舎建設に伴い平成19年度に実施した（調査番号07018）。ここでは、奈良時代～平安時代と、古墳時代後期～飛鳥時代に属する主に2時期の掘立柱建物を中心とする遺構群が見つかった（註2）。図66の木製品は、後に属する柱穴から検出した転用礎板である。



図65 新上小阪遺跡出土礎板



S=1/4

図66 呉竹遺跡出土礎板



図67 新上小阪遺跡・呉竹遺跡位置図

(註1) 調査の詳細については、大阪府教育委員会 2006『新上小阪遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告 2005-7を参照されたい。

(註2) 調査の詳細については、大阪府教育委員会 2009『呉竹遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告 2008-3を参照されたい。

葦屋北遺跡のアンケート調査について

アンケート調査の目的

2006年8月12日(土)午後1時より、葦屋北遺跡において大規模なものでは最終調査区となるF調査区の現地説明会を開催した。その際に現地説明会の来場者に、現地説明会の感想と遺跡に対する考えを問う内容のアンケート調査をおこなった。当日の来場者は171名(内2名には質問用紙を渡すことができなかった)、回収した質問用紙は92名、約54%の回収率であった。アンケート調査をおこなうねらいは、1. 現地説明会来場者層の現状を把握すること、2. 来場者の遺跡観を推測すること、の2点である。調査成果は、現地説明会の来場者層を拡大すること、そしてその次段階として遺跡の存在を現代社会に浸透させるために生かされることを目的とする。

アンケート調査実施概要

質問用紙は、18項目の質問と回答者自身の個人情報(性別、年齢、職業など)を問う項目で構成し、A4サイズの用紙1枚におさめた。質問は、居住地、現地説明会を知ったきっかけなどの具体的に答えやすい質問から、会場におけるの感想を問う詳細に移り、最後には回答者の歴史観を問う抽象的な質問を加え、徐々に答えにくいものに移るように配置した。また、個人情報に関する問いは、質問用紙の最下部に配置した。

当日、受付にて現地説明会資料とともに、また、アンケート調査の質問用紙を配布した。休憩所として設置したテント内には筆記具と机、質問用紙の回収箱をもった係員1名を配備した。また、回収箱を持った係員は、会場出口へ向かう通路にも、さらに1名配備した。各質問の主だった回答はグラフにて以下に示す。また、半数を超える回収率であったことより、回答者の傾向に、概ね来場者の傾向が反映されていると考える。

アンケート調査回答の集計概要と提言

ここでは、回収した質問用紙にある回答より読み取れることを紹介したい。

まず、来場者の半数以上(54%)は男性であり、ほぼ半数(47%)が60歳以上、36%が定年退職者であった。また、50歳代を越える来場者の70%にもぼり、比較的年齢の高い層が来場者の圧倒的多数を占めることがわかる。好きな本のジャンル及び、それとほぼ同じ傾向を見せていたのがグラフには示さなかったが、趣味や休日の過ごし方において、考古学、歴史及び遺跡関連の分野に関わるものを掲げた回答が多く、時間・精神的に比較的余裕のある人々が、余暇の過ごし方の一環として休日

葦屋北遺跡現地説明会についてのアンケート調査

「おまわり願わず、差し戻さない範囲内で回答いただけるでしょうか。どうぞよろしくお願ひ致します。」

1)どこからいらっしゃいましたか? 従前調査、四本堀川、葦屋北遺跡、大塚市、大塚市その他、他() (90%)

2)遺跡の現地説明会にいらっしゃるのを知り得たですか? はい() 3)いいえ() (91%)

3)今日の現地説明会のことをどこで知りましたか? 新聞、テレビ、ホームページ、その他() ()

4)今日の来場理由は何ですか? 歴史・文化、友人に誘われて、通りがかり、その他() ()

5)今日は、どなたと一緒にいらっしゃいましたか?

親、配偶者、子供、孫、同僚、友人、恋人、友人、先生、近所の人、遠方からの来客、一人、その他() ()

6)今日は何を持っていらっしゃいましたか? (持ち物) ()

カメラ、ビデオ、お財布、本、筆記用具、その他() ()

7)遺跡内のどこで長い時間すごされましたか? ()

理由() ()

8)今日は、何の写真を取りましたか? 具体的にお聞かせください。

遺跡内(建物) () テント内() () 景色、その他() ()

理由() ()

9)今日、一番印象に残っているものはなんですか? ()

10)今日のご来訪は楽しめましたか? はい() いいえ() (95%)

理由() ()

11)今日は帰りに、どこかに立ち寄りませんか? はい() 具体的に() ()

12)今日ここに来る前にどこかに寄りませんか? はい() 具体的に() ()

13)今日のどこを誰かに話すと思えますか?

親、子供、孫、友人、配偶者、恋人、先生、同僚、その他() () 誰にも話さない()

14)葦屋北遺跡について、どこかでご覧になったことがありますか?

教科書で読んで、本で読んで、新聞で読んで、自分で調べた、テレビで見た、人に聞いた、その他() ()

15)この遺跡についてもっと知りたと思いますか? はい() いいえ() ()

16)この遺跡は誰のものだと思いますか? 近隣の住民、葦屋北遺跡、大塚市の住民、研究者

大塚市(行政)、日本国民、夏祭りの人々、参加した人々、自分、誰でも、その他() ()

17)歴史に興味はありますか? はい() いいえ() ()

18)歴史的なもの(その他の遺跡・建物・発掘されたもの等)は保存されるべきだと思いますか?

はい() いいえ() ()

19)あなたご自身の生活に、歴史はどういかなる力をもっていますか? ()

20)好きな本のジャンル: ()

休日の過ごし方: ()

出身地: ()

性別: ()

年齢: ()

職業: ()

好きな本のジャンル: ()

休日の過ごし方: ()

出身地: ()

図 68 当日配布した質問用紙

に遺跡の現地説明会を訪れるという傾向が読める。またこれは、大多数の人が、Q2において見られるように繰り返し現地説明会を訪れるリピーターであり、Q4において見られるように歴史に興味があつて今回の現地説明会を訪れた人々であることから伺える。

次に目につく著しい事象は新聞の貢献度である。Q3及びQ14において見られるように、現地説明会と遺跡の認知は新聞によることがほとんどである。このことと、来場者の年齢層の高さは必ずしも無関係ではないと考える。遺跡の現地説明会に興味をもっている可能性の高い学生は、今回の回答者の中には3名しかいない(回答者内訳の職業の項参照)。若い世代は新聞を読まないとは言わないが、新聞以外のメディア、例えばホームページなどによる情報提供をいっそう充実させること、大学や高校など学生が目にしやすい場所に周知をおこなうことによって、若年層の来場者を獲得することも可能になるかもしれない。さらには、Q1を見ると近隣から(徒歩圏内、四條畷市及び寝屋川市の合計)の来場者が1割と、少数であることがわかる。近隣の学校や企業に対する個別の周知も来場者のバラエティーを広げることに繋がるであろう。

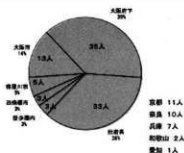
また、多数の来場者がQ5に見られるように一人で、Q11及びQ12に見られるように何かのついでではなくこの現地説明会のためだけに来場していることから、来場者の多数が意欲的に自分の意志で来場していることがわかる。一方で、どこかに寄り道をした(またはする予定の)人々の多くは近接する史跡や資料館をあげており、同様の意欲を持った来場者層であると見なすことができる。この固定来場者ともいえる層に加えて、来場者となるポテンシャルを備えた人々を呼び込むことができれば、遺跡は幅広い層に周知され、さらには親しみを持ってもらえることに繋がる手段となるであろう。前述のように、学校や近隣の集客力のある施設に積極的に周知することを提案したい。公の施設に限らず、スーパーや駅などは候補としてあげられよう。遺跡の存在意義を社会的に認知してもらい、必要な場合に保存をするためには、現代社会において幅広い層、特に経済活動の基盤を担う層からの協力が不可欠である。その人々に認知をしてもらうためにも、現地説明会が、一般の人には唯一に等しい現場との接触の良い機会となることが望ましい。

今回の現地説明会は、Q10から見ても概ね満足してもらえる内容であったことがわかる。その中でも特にQ7・8・9にみられるように、鞍は目玉であったようである。新聞に掲載された記事も、鞍

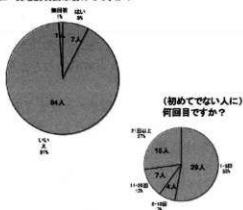
が主であったため、それは前知識に基づいた自然な傾向といえる。しかしながら、同じ質問において、井戸と住居跡に対する関心の高さも伺える。これは生活感のある観念的共有の遺構自身に対する関心の高さもあろうが、遺構内に出土状況のまま置かれた状態の土器について、少なくとも5名が解答用紙の中でポジティブに触れている。アンケートの回答においては明示していないが、長い時間をこれらの2カ所で過ごした人、写真を撮った人の中には、遺構内の土器に魅かれた人がもっと沢山いた可能性は充分あると考える。当日は、猛暑下の晴天という天候のせいもあり、遺物展示をおこなっているテント内で長い時間を過ごした来場者も多かったようであるが、遺物展示の手法として、遺物と遺構のダイナミックな関係と臨場感を出土状況において見せるということは、来場者から望まれているものであることは間違いないであろう。

以上、アンケート調査から読み取れた傾向をいくつか示してみた。クロス集計や他遺跡の場合とのデータ比較などにより、さらなる分析は可能であろうが、今後の課題とするとともに、より充実した現地説明会の可能性の一助としたい。(小川 裕見子)

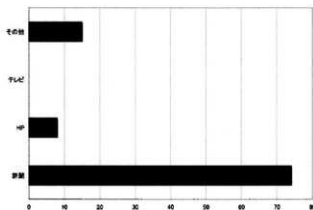
Q1 どこから来ましたか？



Q2 現地説明会は初めてですか？

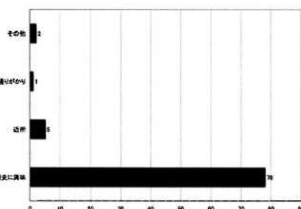


Q3 この現地説明会を知ったきっかけは？ (複数回答可)



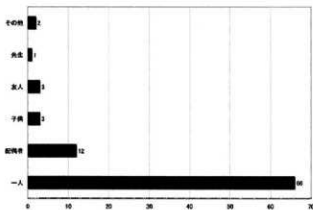
*その他: インターネット2, 知人2, 職場2, 子供

Q4 この現展に来た理由は？

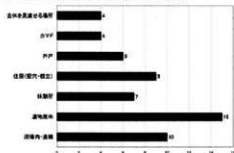


*その他: 思いつき, 島屋北道館に興味

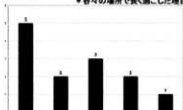
Q5 誰と来ましたか？



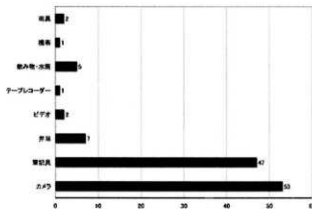
Q7 長い時間を過ごした場所は？ (複数回答可)



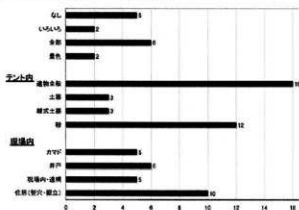
*各々の場所で長く過ごした理由



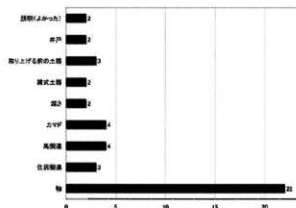
Q6 今日の持ち物は？（複数回答可）



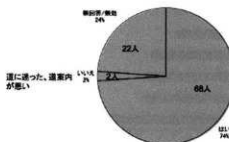
Q8 何の写真をとりましたか？（複数回答可）



Q9 今日一番印象に残っていることは？（複数回答可）



Q10 今日の現地説明会は楽しめましたか？

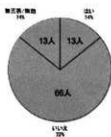


Q11 帰りどこかに寄りますか？



四條市立歴史民俗資料館 7人
 形ヶ丘宮崎、神社など近隣の歴史的な所 4人
 その他: スーパー、食事、買い物など

Q12 ここにくる前にどこかに寄りましたか？

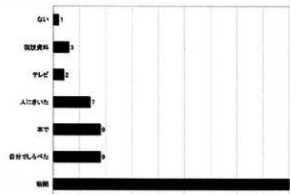


権立神社など近隣の歴史的な所 4人
 四條市立歴史民俗資料館 2人
 その他: 私用、考古関係の集まり、など

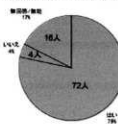
Q13 今日のことを誰に話しますか？（複数回答可）



Q14 これまでに野道北遺跡についてどこかで見たことは？（複数回答可）

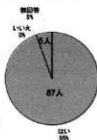


Q15 歴史北道跡についてもっと知りたいですか？

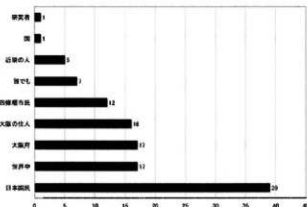


牧場、馬飼いやなど馬関連について知りたいので 5人
その他、研究したい、近所なので、報告書、これまでの
まとめ、農業系氏族に興味、など

Q17 歴史に興味はありますか？

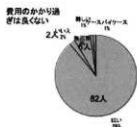


Q16 歴史北道跡は誰のものだと思いますか？(複数回答可)



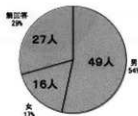
*「大森町」と「大森の住人」は役所と菅野との区別を付けるつもりで別途の選択しをあげましたが、回答パターンから見て、回答者はきちんと区別していないようでした。

Q18 歴史的な物は保存されるべきだと思いますか？



アンケート回答者内訳

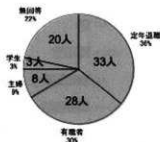
性別



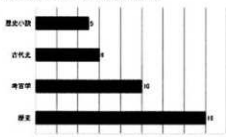
年齢



職業



好きな本のジャンル(複数回答可)



1 普及啓発事業

1-1 検討会

第1回検討会 2008年5月14日(水)

「桑原遺跡の調査報告」小川裕見子

第2回検討会 2008年6月11日(水)

「唐横山古墳・銅塚古墳調査報告」小山田宏一

第3回検討会 2008年7月9日(水)

「平野屋新田会所跡確認調査」松岡良憲

第4回検討会 2008年9月10日(水)

「平石古墳群の被葬者」上林史郎

第5回検討会 2008年10月8日(水)

「呉竹遺跡」岩瀬 透

第6回検討会 2008年11月12日(水)

「堺の酒造業について」三木 弘

第7回検討会 2008年12月10日(水)

「韓国、勸島(ヌクド)遺跡の調査—埋葬犬を中心に—」宮崎泰史

第8回検討会 2009年1月14日(水)

「無題」藤澤真依

第9回検討会 2009年2月18日(水)

「象のはなし(PART.2)」高島 徹

第10回検討会 2009年3月11日(水)

「文化財 昨日・今日・明日」瀬川 健

1-2 資料の展示

a 泉北考古資料館

■企画展

所蔵する資料の中から、特定のテーマで展示。

第4回「平安時代の須恵器—陶器に白煙が絶えるころ—」

会期：2008年1月5日(土)～6月8日(日)

展示品：花瓶5点・小皿2点・瓶子4点・高杯1点・杯2点・椀2点・壺5点・鉢4点・甕6点・蛸壺11点。計42点(堺市陶器窯跡群TK230-1号窯)

第5回「器【うつわ】でないモノ」

会期：2008年6月11日(水)～10月12日(日)

展示品：鷗尾2点(堺市陶器窯跡群TG223号窯・TG64号窯)・水煙形土製品1点(MT5-1号窯)・火輪2点(KM29号窯)・埴9点(堺市牛石14号墳・TG223号窯・TG17号窯)・平瓦1点(TG223号窯) 計15点

第6回「須恵器再発見！—金属器を真似たスタイル—」

会期：2008年10月15日(水)～2009年3月15日(日)

展示品：脚付椀1点(堺市陶器窯跡群TK43-1号窯)・鉢1点(KM28-1号窯)・蓋4点(TG68号

窯・KM60号窯KM22号窯・TG77号窯)・仕切付杯身1点(TG68号窯)・台付鉢1点(TG68号窯)・皿1点(TG68号窯)・無蓋高杯1点(TG70号窯)・杯2点(KM22号窯)・鉢1点(KM22号窯)・花瓶1点(TK230-1号窯) 計14点

■優品展

「大阪博物館」(1875年設立)の陶磁器コレクション(大阪府指定有形文化財)を公開。

第15回「陶磁の置物Ⅲ—福摩焼・唐津焼などの人物置物—」

会期：2008年1月5日(土)～4月6日(日)

展示品：薩摩焼白釉唐子・唐津焼鉄釉白釉西行・備前焼蝦蟇仙人・万古焼牛乗牧童・大樋焼胎袖布袋・乾也焼色絵蘭帝 計6点

第16回「陶磁の酒器」

会期：2008年4月9日(水)～7月6日(日)

展示品：三河内焼染付芙蓉折枝文德利・丹山焼黒釉菊花文散六角酒注・染焼(慶入)焼締德利・阿漕焼錆地色絵花鳥文手付酒注・九谷焼色絵唐子遊文瓢形德利・九谷焼色絵花蝶文細頸德利 計6点

第17回「中国陶磁」

会期：2008年7月9日(水)～10月12日(日)

展示品：青磁印花文茶碗・青花捻花文輪花碗・緑釉青花松鹿文輪花皿・粉彩賢人文細頸壺・瑠璃釉青花吉祥文瓶・青花騎馬人物文不遊環瓶 計6点

第18回「陶磁の香炉」

会期：2008年10月15日(水)～2009年3月15日(日)

展示品：薩摩焼色絵布袋形香炉・薩摩焼染付獅子鈕三足大香炉・薩摩焼白釉蓮華形香炉・源内焼交趾釉飛龍香炉・古清水焼鉄絵染付草刈童子香炉・永楽保全作黄交趾梅唐草文三足香炉・京焼青磁獅子鈕香炉・湖東焼色絵仙人文獅子鈕四角香炉 計8点

■書一番コレクション展「注ぐスタイル」

注ぐ器にスポットを当て、企画展示「須恵器にみる酒器」と優品展示「急須」を同時開催

会期：2009年3月18日(水)～7月12日(日)

「須恵器に見る酒器」

展示品：樽形はそう1点(堺市深田橋遺跡)、はそう2点(堺市陶器窯跡群TK87号窯・40-1号窯)・提瓶3点(TG支群窯・TG41号窯・TG10-1号窯)・平瓶5点(TK43-1・TK73・TG222-1・TG70) 計11点

「急須」

展示品：黄交趾五雲文急須・刷毛目芋頭急須・色絵飲中八遷詩文急須・青磁急須・色絵金彩百唐子文急

須・紫交趾楼閣山水麒麟文急須・緑交趾粟鼠文急須計7点

b 府庁別館

文化財展示

府庁別館1階と8階のロビーに設けられた文化財展示コーナーに埋蔵文化財を展示した。

「須恵器—炎がつくりだした形—」

堺市陶器窯跡群で焼かれた須恵器を紹介。

会期：2008年4月14日(月)～

展示品：高杯3点(堺市陶器窯跡群TG64号窯・KM12号窯・TG207号窯)、蓋杯3点(TG207号窯・TG35号窯)、壺1点(TG207号窯)・提瓶1点(TG38-II号窯)・杯身4点(MT208号窯・TG68号窯・TG70号窯・TG215号窯)・広口壺(ON151号窯)・長頸壺(TG64号窯)・短頸壺1点(TK235-II)・窯体2点(TK230-II) 計17点

c 弥生文化博物館

■ 弥生ブラザ展示

府立博物館活性化事業の一環として、常設展示室「弥生ブラザ」で所蔵資料を展示。「考古学セミナー」に講師を派遣した。

第1回「木の本遺跡—大阪で弥生時代が始まったころ—」

会期：2008年8月26日(火)～12月27日(土)

展示品：壺1点・壺蓋1点・甕1点・甕蓋1点・鉢1点・把手付鉢1点・彩文壺蓋1点・彩文壺11点・内面朱付着土器2点・凸帯文深鉢5点・凸帯文甕1点・凸帯文底部1点・磨製石庖丁4点・大型石庖丁2点・打製石鎌2点 計35点

第2回「倭国大乱の一断章—南河内の高地性集落と東山遺跡—」

会期：2009年1月6日(火)～2009年4月30日(木)

展示品：石畿19点・石槍3点・石錐1点・石匙1点・石刃2点・石庖丁1点・調整石器2点・磨石4点・叩石3点・丸石3点・石槌2点・石冠1点・石皿2点・砥石6点・石英礫3点・サヌカイト剥片43点・長頸壺1点・器台2点・高杯1点・甕1点 計101点

■ 考古学セミナー

第1回 2008年10月25日(土)

「木の本遺跡の発掘調査の成果」横田 明

第2回 2009年2月28日(土)

「倭国大乱の一断章—南河内の高地性集落と東山遺跡—」森井貞雄

d 近つ飛鳥博物館

府立博物館活性化事業の一環として、スポット展示を実施し、「土曜講座」に講師を派遣した。

■ スポット展示

第1回平成2008年9月20日～10月5日

「茨木市で見つかった終末期古墳—桑原西古墳群の出土品—」

第2回2008年12月13日～12月27日

大王権を支えたハイテク集団—河内の馬飼と部屋北遺跡—

第3回2009年3月19日(木)～4月5日(日)

「古代寺院を彩る—舍利と堂塔の荘厳—」

■ 土曜講座

第1回2008年9月27日(土)

「安威川流域の古墳—茨木市で見つかった終末期古墳—」小川裕見子

第2回2008年12月13日～12月27日

「河内の馬飼—四条畷市部屋北遺跡の調査成果—」宮崎泰史

第3回 平成21年3月28日(土)

「古代日本における仏舎利の奉安—舍利容器と舍利荘厳具—」岡本敏行

1—3 学校教育との連携

a 職場体験学習

2009年2月19日(木)

堺市晴美台中学校2年生(3人)を受け入れ、遺物整理(土器洗浄・復元等)の体験指導。

b 出張授業

府立高校の総合科日に講師を派遣。

府立千里青雲高校「考古学入門講座」(2008年8月20～22日・2009年3月17日)

1-4 資料の調査

松岡コレクション(弥生文化博物館保管)の調査

2 資料

2-1 埋蔵文化財(整理箱数)

a 泉北考古資料館(堺市南区)	10799箱
(重要文化財を含む)	
b 泉北収蔵庫(高石市)	43350箱
c 大井収蔵庫(藤井寺市)	12378箱
d 志紀収蔵庫(八尾市)	3710箱
e 北部北収蔵庫(摂津市)	3171箱
f 東大阪収蔵庫(東大阪市)	70400箱
g 文化財調査事務所(堺市南区)	6771箱
合計	150579箱

2-2 民俗文化財

文化財調査事務所

・谷口家資料	22点
・辻家資料	13点
・守田コレクション	20点
・上平家資料	15点
・畑野家資料	2点

・三宅家資料	一括
・大恩寺資料	一括
・前西家資料	2件

2-3 写真・図面その他の資料

文化財調査事務所

・図面資料	4708 ケース
・写真資料	7315 ケース
・台帳	
・パネル	778 点

2-4 図書

文化財調査事務所

図書	39601 冊
----	---------

—— 平成 20 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧 ——

大阪府埋蔵文化財調査報告	概要報告
2008-1 『東郷遺跡』	『加納古墳群・平石古墳群』
2008-2 『大岩の石組水路（ガマ）』	『部屋北遺跡発掘調査概要・VII』
2008-3 『兵竹遺跡』	
2008-4 『林遺跡・国府遺跡・土師の里遺跡』	『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 12』
2008-5 『銭塚古墳』	

— 平成 20 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧 —

実物資料・複製資料長期貸出

申請者	遺跡	資料内容・点数	目的(展示内容等)
1 国立歴史民俗博物館	池上曾根遺跡	石造丁3	計3点 総合展示「種と倭人」
2 大阪府立狭山池博物館	池反城跡 大和山今池遺跡	甕金1 罎1	計2点 常設展示「中世の土地開発と狭山池」
3 大阪府立女性総合センター (ドーンセンター)	大坂城跡	美濃焼小鉢1・天目茶碗1・鉄軸丸瓶1・鉄軸皿2・灰軸折縁皿1・灰軸陶皿1・灰軸皿1・志野向付1・皿1・中国製白磁1・青花皿1・ベトナム製色絵皿1・金箔瓦4	計17点 常設展示(リフレッシュコーナー)
4 大阪府立西成高等学校	喜志遺跡 八尾南遺跡 豊振遺跡 宗禪寺遺跡 陶器南遺跡	弥生土器壺1 土師器蓋口壺2・小型丸底壺1・高杯1・台付壺1 土師器罎1 須惠器杯身1・有蓋高杯壺3・有蓋高杯身3・はそう1・壺1 須惠器片コテナ1箱 計16点コテナ1箱(須惠器片)	授業・展示
5 大阪府立大手前高等学校	大坂城跡	金箔丸瓦1・飾瓦1・軒平瓦1・文字入り平瓦1・軒丸瓦1・天目茶碗1・須惠器短頸壺1・分銅1・白磁香炉1・美濃水滴1・烏文青花大皿1・鈔1・弁1	計13点 授業・展示
6 大阪府立三國丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦10・軒平瓦8・弁瓦3・雁振瓦1・瓦器碗7・土師皿11・すり鉢1・土師質羽釜1・陶磁器5・硯1	計48点 授業・展示
7 大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器壺2・須惠器杯5・高杯3・碗1・壺4・こね鉢1・その他1・輪式系土器壺1・土師器壺3・壺2・高杯3・碗1・皿4・瓦器碗31・皿1・火鉢1・釜1・磁器碗1・砥石1・下駄2・箸2・人形甕1・土鐘1・キセル1・加工骨1	計76点 授業・展示
8 大阪府立四條堀高等学校	粟島岡山遺跡 雁屋遺跡	円筒埴輪3・須惠器短頸壺1・壺1・提瓶1 弥生土器壺7・長頸壺1・無頸壺1・無頸壺蓋1・鉢3・鉢蓋1・壺7・台付鉢2・台付壺1・器3・高杯3・手捏り形土器2・黒色土器碗1・土師器壺2・須惠器平底1・無蓋高杯1・蓋杯蓋1・蓋杯杯身2・はそう1・壺1・砥石4・土鐘5	計57点 授業・展示
9 大阪府立八尾北高等学校	豊振遺跡	弥生土器壺1・長頸壺1・無頸1・壺蓋1・土師器壺1・須惠器有蓋高杯1・高杯壺1・杯身1・杯蓋1・はそう1・円筒埴輪1・埴形埴輪6・勾玉4・紡錘車2・白玉8	計31点 授業・展示
10 大阪府立茨木高等学校	新庄遺跡	弥生土器壺2・壺2・鉢2・壺3・磨製石斧5	計14点 授業・展示
11 能勢町歴史資料室	上橋遺跡 庵遺跡 丸ノ坪遺跡 大里遺跡	須惠器壺1 須惠器杯身1・杯蓋2・円面碗1・土師器高杯1 黒色土器碗2・土師器小皿3 弥生土器片1・壺3・無頸壺1・鉢1・蓋1・高杯1・土師器壺1・壺3・器台1・杯2・須惠器杯2・壺3・石造丁4・石斧3・石錘1・石鏝7	計46点 能勢町歴史資料室(能勢町ふるさと会館内)常設展示
12 豊能町立郷土資料館	余野城跡	瓦器碗7・瓦器片20・土師皿4・須惠器片3・砥石1	計35点 豊能町立郷土資料館常設展示
13 吹田市立博物館	吉志部瓦窯	軒丸瓦1・平瓦1・緑釉陶器片2・緑釉瓦片6・窯道具6	計16点 常設展示「桓武朝平安宮瓦窯」
14 藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小型修繕1	計1点 図書館展示室常設展示
15 堺市立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器碗27・皿6・土師器皿1・瓦質羽釜1・鍔型片29・薄口刀18・鉄製刀子1・青銅製品2・鉄銚系遺物7・砥石7	計99点 常設展示「河内諸物館」
16 太子町立竹内街道歴史資料館	伽山古墓	銀製帯金具(レプリカ)一式	常設展示(第2展示室)
17 池上曾根弥生学習館	池上曾根遺跡	炭化米(No.286) 1ケース	常設展示
18 和泉市いづみの国歴史館	府中遺跡 坂本寺跡 大園遺跡 池田寺跡 信大寺跡 和泉寺跡	弥生土器高杯1・壺7・壺2・壺蓋形土器2 軒丸瓦6・軒平瓦5 有蓋土器壺2・手捏り玉2・滑石製勾玉1・紡錘車1 文字瓦6・軒丸瓦8・軒平瓦1・石製立方1 平瓦(人物画像)1・文字瓦4・軒丸瓦1・軒平瓦1 平瓦2・軒平瓦1・軒丸瓦3	常設展示「和泉市の歴史—考古学の世界」

池上豊根遺跡 弥生土器類1・水差形土器1・高杯3・鉢3・壺7、木製品高杯1・把手付鉢1・鉢1・弁の柄1・布巻具(経巻具)1・用途不明品1・小型四脚付盤2・臼1・杓子2・銀3・替5・石鏝2・大型石磨丁2・環状石斧2・石斧9・石槍9・投擲3・ヒスイ勾玉1・管玉5・ガラス片3、イノシシの下顎骨1・鹿角1・骨製ヤス2・骨器未製品5・銅鏡2・八稜鏡1
計141点

19	宮城県立西郷孝考古博物館	陶器窯跡群	須惠器	計109点	常設展示コーナー [考古学研究所]
20	サイエンス・サテライト	三軒屋遺跡 池上豊根遺跡	縄文土器1 弥生土器1	計2点	常設展示「くらしの 中の放射線利用」
21	吉志部神社	吉志部瓦窯	軒丸瓦1、軒平瓦1、緑釉瓦片2、トチン2	計6点	社務所玄関ロビーに展示
22	文野市教育委員会	大谷窯跡	須惠器24点 須惠器片21袋(ビニール袋)	計24点 21袋	歴史民俗資料展示室 常設展示

実物資料短期貸出

貸出先(申請者)	遺跡	資料名/点数	展示会/掲載図書名称
1 長野県立歴史館	南花田遺跡	ナイフ形石器8	秋季企画展「よみがえる氷河時代の狩人」
2 大阪府立弥生文化博物館	木の本遺跡	弥生前期土器27 石磨丁6 石鏝2	弥生プラザ「木の本遺跡—大阪で弥生時代がはじまった頃—」
3 大阪府立狭山池博物館	藤屋北遺跡 大和川今池遺跡 池島権万寺遺跡 池上豊根遺跡	子持勾玉1 滑石製勾玉8 メノウ製勾玉1 ヒスイ製勾玉1 ヒスイ製勾玉2 ヒスイ製勾玉1 ヒスイ製勾玉1	教師のための博物館 利用セミナーの教材
4 四條畷市教育委員会	圓貝部桑里遺跡 砂遺跡	縄文土器深鉢2 縄文土器壺7 縄文土器鉢2 土偶6 石刀1 石斧2 石鏝6	特別展「ひとつぶの薪—近畿地方最古の弥生土器を中心に—」
5 大阪府立近つ飛鳥博物館	桑原西古墳群	須惠器杯高4 須惠器杯身4 須惠器樽瓶1 須惠器平瓶3 須惠器短頸壺2 須惠器高杯1 土師器杯蓋2点 土師器杯身1 土師器高杯1 土師器短頸壺1 土師器杯1 ガラス玉19点 琥珀玉1 耳輪15 鉄刀子1 鉄釘6 陶棺(性)2 燧4	スポット展示「茨木市でみつかった終末期古墳—桑原西古墳群の出土品—」
6 羽曳野市	壹井御旅山古墳	円筒埴輪・壺形埴輪コンテナ58箱	「庭島塚古墳調査成果展」
7 太子町教育委員会	国府遺跡 はさみ山遺跡 八尾南遺跡 今池遺跡 中谷南遺跡 高志西遺跡 南花田遺跡 拙題中町遺跡 甲田南遺跡 寛弘寺遺跡	旧石器18 旧石器19 旧石器33 石器25 石器7 有古尖頭器1 有古尖頭器1 打製石剣3 打製石剣1 サヌカイト割片20	太子町立竹内街道歴史資料館 企画展「家談するサヌカイト—その隆盛と終焉—」
8 和泉市教育委員会	馬子塚古墳	斜縁二神二獣鏡1 碧玉製管玉1	いずみの国歴史館特別展「和泉黄金塚古墳の時代」
9 堺市立みはら歴史博物館	応神塚古墳外堤	円筒埴輪2	秋季特別展「百舌鳥古墳群築造の時代—旅の王権—」
10 羽曳野市	壹井御旅山古墳	底部穿孔壺形埴輪1 円筒埴輪2	庭島塚古墳調査成果展
11 太子町教育委員会	株山遺跡	サヌカイト壺コンテナ5箱	太子町立竹内街道歴史資料館 企画展「家談するサヌカイト—その隆盛と終焉—」
12 大阪人権博物館	深田橋遺跡	樽形はそう1 把手付き椀1	特別展「大阪・アジア交流史—人とモノのつながる画—」
13 奈良大学	シノツカ古墳	ガラス玉1067点	成分分析(X線分析装置による非破壊分析)
14 大阪府立近つ飛鳥博物館	圓貝部桑里遺跡 藤屋北遺跡	輪縁1 製造土器3 U字形板状土製品1 輪縁(レプリカ)1 甕1 立間金具1 鹿角製礮1 礮羽口1 曲柄刀子1 縄文系土器8	スポット展示「大王権を支えたハイテク集—河内馬飼と藤屋北遺跡—」

15	大阪府立近つ飛鳥博物館	北玉山古墳群の森古墳 仲津山古墳 応神陵古墳	覆土鏡 馬具1 鉄鍬1 円筒埴輪3 円筒埴輪1	冬季特別展「百舌鳥・古市古墳群―巨大古墳の時代」
16	長野県立歴史館	菰屋北遺跡 長保寺遺跡	輪鍬1 鋤1 鞍（後輪）レプリカ 鞍（後輪）1	開館15周年記念「善光寺信仰―流転と遷歴の動化―」
17	弥生文化博物館	東山遺跡	石鏡・石鏝・石槌等96 弥生土器5	弥生プラザ「豊饒大乱―新編―南内河の高地性集落と東山遺跡―」
18	サントリー美術館・新潟県立歴史博物館・NHK事業センター	大坂城跡	嵐楽茶碗1	NHK大河ドラマ特別展「天地人―直江兼続とその時代―」
19	大阪府立近つ飛鳥博物館	東郷遺跡	特殊器台1	春季特別展「卑弥呼死す、大いに家をつくる―前方後円墳の成立―」
20	大阪府立近つ飛鳥博物館	鳥坂寺跡 新堂渡寺	金銅製飾金具5 金銅製天衣片1 金銅製帯巻1三彩火舎1 三彩盤1 埴仏2（以上鳥坂寺跡） 帯金具1 埴仏2（以上新堂渡寺）	スポット展示「古代寺院を彩る―舍利と堂塔の荘厳―」
21	羽曳野市	香井御旅山古墳	円筒埴輪・葎形埴輪コンテナ58箱	報告書「鳥居塚古墳」

資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

依頼者	撮影・掲載・貸出	種類	遺跡	資料内容/点数	目的/掲載誌	
1	藤井寺市教育委員会	掲載	写真カラー	はさみ山遺跡	軒丸瓦1	藤井寺市広報「広報ふじいでら」5月号
2	大阪土地家屋調査士会	掲載	図面	百舌鳥・古市古墳群	百舌鳥・古市古墳群の位置図（「文化財保護課ホームページ―世界遺産暫定―一覧表記載資産候補候補の提案について」）	日本土地家屋調査士会連合会「土地家屋調査士」
3	藤井寺市民生活部	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況1	藤井寺市広報「広報ふじいでら」6月号
4	藤井寺市観光協会	貸出 掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況1	修羅出土30周年記念フェスタのためのパネル展示
5	関西農社	掲載	写真カラー	菰屋北遺跡	第11面西部全景写真1 大溝090001写真1 製塩土器1 馬全身骨格の出土状況1	「聖徳天皇 二つの陵墓、三つの王宮」
6	横手市史編さん室	掲載	写真カラー	陶器窯跡群	須恵器無蓋高杯1 須恵器高杯形器台1	「横手市史」通史編
7	韓式土器研究会	掲載	写真カラー	土師の里遺跡	土師器土器1	「韓式系土器研究」X
8	四條堰市教育委員会	掲載	写真カラー	菰屋北遺跡	木製鞍1 網罟1	「子ども歴史 わたしたちの四條堰」
9	ボア企画室	貸出 掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況1	「遺跡に眠る謎―飛鳥遺跡群」『週刊歴史のミステリー』第33号
10	小学館	貸出 掲載	写真カラー	大坂城跡	太閤餅1	「徳川の国家デザイン」『日本の歴史』第10巻
11	鳥取県埋蔵文化財センター	貸出 掲載	写真カラー	古市大溝	S K940馬全身骨格出土状況	「鳥取県の考古学」第5巻古墳時代Ⅱ、鳥取県埋蔵文化財センターのホームページ
12	長野県立歴史館	撮影 掲載	写真カラー	南花田遺跡	ナイフ形石鏝8	秋葉企画展「よみがえる水刃時代の狩人」の展示パネル・図録・広報関係資料
13	関ユニーキャン	掲載	写真カラー	陶器窯跡群	須恵器1	「高瀬―が語る日本古代史」〔ビデオ/DVD全12巻〕の広告
14	朝あすなろ書房	貸出 掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況1	「大和の朝廷の国づくり」ジュニア版『日本歴史』第2巻
15	大阪府立弥生文化博物館	貸出 掲載	写真カラー	木の本遺跡	弥生前期遺構面透景1 土坑0319石甕丁出土状況1	弥生プラザ「木の本遺跡―大塚で弥生時代がはじまった頃―」

16	㈱ニューサイエンス社	貸出 掲載	写真カラー	木の本遺跡	第6地点探合資料 (No.84) 1	『月刊考古学ジャーナル』2008.8月号 表紙写真
17	ふれあい	貸出 掲載	写真モノクロ	八尾南遺跡	修羅出土状況1	『修羅30周年座談会』 「ふれあい」217号
18	弥生文化博物館	貸出 掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	石盾丁出土状況2	弥生プラザ「木の遺跡—大阪で弥生時代がはじまった頃—」
19	Book Korea	貸出 掲載	写真カラー	木の本遺跡	修羅出土状況1	『東インドネシア、スンバ島の巨石文化—1975年に行なわれた石甕式行幸—』[今も生きている支石墓社会スンバ島]
20	藤井寺市郷土研究会	掲載 撮影	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況1	世界遺産登録に向けた応援パネル
21	堺市長公室文化部	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	全景 (調査前・戦前) 1	説明板 (史跡整備)
22	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	掲載	写真モノクロ	土塔	ヒスイ製勾玉1	企画展「弥生西東—遺跡が語る人々の暮らし—」の展示パネル・図録
23	東大阪市立英田中学校	貸出 掲載	写真カラー	稲葉遺跡	弥生前期土器1	「校区の歴史」英田中学校50周年「記念誌」
24	四條囃子教育委員会	撮影 掲載	写真カラー	砂遺跡	竇棺出土状況1 遺構出土状況1 全景1 足跡1 4-14区6次面1	特別展「ひとつぶの初—近畿地方最古の弥生土器を中心に—」
25	個人	撮影	写真カラー	讃良郡朱里遺跡	滋養皿Ⅳ式粉塵土器	庄慶のレプリカ作成
26	明治大学古代学研究所	貸出 掲載	写真カラー	高井田廣寺	文字瓦	「日本古代文化における文字・図象・伝承と宗教の総合的研究」の展示パネル
27	近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真カラー	桑原西古墳群	桑原西古墳群とその周辺1 桑原西古墳群完掘状況1 B7号墳石室内遺物出土状況1 C3号墳全景1 A3号墳塔2 竇穴式小石室内遺物出土状況1 B1号墳全景1	スポット展示「茨木市でみつかった終末期古墳—桑原西古墳群の出土品—」
28	太子町教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	国府遺跡はさみ山遺跡 はさみ山遺跡 はさみ山遺跡	第3地点出土石器1 85-7区出土石器1 85-7区住居土遺構1 各地点角錐状石器1	企画展「変貌するサカイ—その隆盛と終焉—」
29	和泉市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー 写真モノクロ	馬子塚古墳 大園遺跡	半三角縁二神二獣鏡1 埴輪群出土状況1	いずみの国歴史館 特別展「和泉黄金塚古墳の時代」
30	堺市立みはら歴史博物館	撮影 掲載	写真カラー	応神陵古墳外堀	円筒埴輪2	秋季特別展「古吉鳥古墳群築造の時代—鉄の王権—」
31	おおい町立郷土史料館	掲載	写真カラー	小島東遺跡	製塩土器1	特別展「源流の塩づくり—おおい町発掘五十年史—」の展示パネル・図録
32	フォト・オリジナル	貸出 掲載	写真カラー	陶器窯跡群	須臾器壺	中学生副教材「入試WIN」
33	羽曳野市教育委員会	貸出	図画	森井御旗山古墳	トレンチ平面図、前方部墓石・埴輪出土状況、等20	庭島塚古墳の調査成果展
34	信州大学	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況1	「トライボロジー—千夜一夜—」
35	近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真カラー	藤の森古墳 陶器窯跡群 仲津塚古墳 応神陵古墳	馬具1 鉄鏡1 須臾器6 (TK73号室・TK83号室・TK109-Ⅲ号室・MT206-I号室・TK218号室・TK85-II号室、以上陶器窯跡群)	冬季特別展「百舌鳥—古市大古墳群—巨大古墳の時代」
36	帝國書院	貸出 掲載	写真カラー	陶器窯跡群 三ツ塚古墳	須臾器1 修羅出土状況1	「中学校スタンダード歴史資料 大阪府版」
37	㈱アドリブ	貸出 掲載	写真カラー	アカハゲ古墳 シヨツカ古墳	石室 石室	「面白いほどよくわかる古代史」

38	近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真カラー	都屋北遺跡 関長部奈里遺跡	周辺空中写真A区1 遺構密集地域の写真C区1 高埋葬土坑を含む遺構群写真A区1 準構造船転 用井戸写真1区(以上、都屋北遺跡) 製造土持 陶器土坑写真1区、木製輪軸出土状況写真(以 上、関長部奈里遺跡) 都屋北遺跡・関長部奈里 遺跡出土遺物集合写真1	スポット展示「大王 権を支えたハイテ ク集団-河内河馬 と都屋北遺跡-」
39	個人	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修繕出土状況1	「清海藩と未清海藩 の異质性ならびに 古墳時代における 修繕の潤滑法につ いての一考察」
40	長野県立歴史館	掲載	写真カラー	都屋北遺跡 長保寺遺跡	輪軸1 磨石1 鞍レプリカ(後輪)1 鞍(後輪)1	開館15周年記念 「善光寺信仰-流転 と運歴の動化-」
41	崇禪寺・中島物 社周辺の町づく りを推進する会	掲載	写真カラー	崇禪寺遺跡	発掘調査写真22点	ホームページ「崇禪寺・ 中島物社周辺の町づく りを推進する会」[東中 島ウオッチング]
42	奈良女子大学	掲載	写真カラー	鳥坂寺跡	笥書平瓦1	「五十戸と知願寺院 -鳥坂寺跡出土泥 書瓦の釈読から」
43	弥生文化博物館	貸出 掲載	写真カラー	東山遺跡	土器集合写真1 石器集合写真1	弥生プラザ「徳田大 乱-断崖-南河内 の高地性集落と東 山遺跡-」
44	吹田市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	史跡吉志部瓦 窯	瓦窯検出状況4	史跡整備に伴う説明 板
45	藤井寺市教育委員会	掲載	写真カラー	都屋北遺跡	高埋葬土坑1 鞍(後輪)1	藤井寺市ホームページ
46	大阪の部落史委員会	掲載	写真モノクロ	西ノ辻遺跡	多数の戦骨が埋納された土坑1 供養に用いられたウマの頭蓋骨1	「大阪の部落史」第 十巻(本文編)大阪 の部落史委員会
47	浜島書店	掲載	写真カラー	陶器窯跡群	須恵器集合	「総合歴史」(中学生 対象歴史資料集)
48	八尾市教育委員会	貸出 掲載	図面	高安古墳群 飯部川支群	墳丘測量図10	平成20年度「高安 古墳群等事業報告」
49	堺市長公室文化部	掲載	写真モノクロ	史跡土塔	全景(昭和27年当時)1	「史跡土塔」
50	神戸市埋蔵文化 財センター	貸出 掲載	写真カラー	はさみ山遺跡	85-7区旧石器時代住居跡	企画展「見て学ぶ古 史展」
51	泉南市教育委員会	貸出	図面	男里遺跡 幡代遺跡	小石室実測図等7 遺物実測図3	移築小石室の整備
52	美浜町教育委員会	掲載	写真カラー	はさみ山遺跡	85-7区旧石器時代住居跡	「鑑る・使う」[わかさ美 浜町誌](生活文化編)
53	(財)元興寺文化 財研究所	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	保存処理後の修繕1	元興寺文化財研究 所研究報告2008
54	歴史教育者協議 会堺支部	掲載 撮影	写真カラー	南花田遺跡	竪穴状遺構1	小学校6年生の歴 史学習副読本(堺の 歴史プリント)
55	近つ飛鳥博物館	掲載	写真カラー	東郷遺跡	特殊浴台1	春季特別展「豊碓呼 す、大いに家をつくる- 前方後円墳の成立-」
56	宮内庁書陵部	掲載	写真モノクロ	津堂城山古墳	後円部の石室と長形石棺(「大阪府史蹟名勝 天然記念物調査報告」第5巻)	「藤井寺陵墓参考地の 地中探査報告」[書陵 部紀要]第60号
57	近つ飛鳥博物館	掲載	写真モノクロ	新堂楽寺 衣懸塚寺	全景1 宝輪遺構1 塔心礎1	スポット展示「古代 寺院を彩る-舍利 と堂壇の荘厳-」
58	歴史教育者協議 会堺支部	掲載	図面	陶器窯跡群	あな窯1 須恵器作り1(「陶器・窯・須恵器」 文化財あれこれブックレットNo.1)	小学校6年生の歴 史学習副読本(堺の 歴史プリント)
59	羽曳野市教育委員会	貸出	図面	遊井御旗山古 墳	トレンチ平面図、前方部築石・埴輪出土状態、 等20	鹿島塚古墳の調査 成果展
60	交野市文化財事業団	掲載	写真カラー	都屋北遺跡	馬全身骨格の出土状況1 ふいご羽口1	「北河内の古墳」

資料閲覧

申請者(所属)	遺跡、その他	資料内容
1 奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (TG68号室)
2 大阪大学大学院・宇治市歴史資料館・奈良文化財研究所	陶器窯跡群	須恵器 (TG68号室・TG64号室)
3 奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (KM22号室・KM51号室)
4 奈良女子大学大学院	陶器窯跡群	須恵器 (TG233号室)
5 愛知県陶磁資料館	陶器窯跡群	基準資料
6 大阪大学大学院・奈良文化財研究所	陶器窯跡群	須恵器 (TG68号室)
7 文野市教育委員会	陶器窯跡群	須恵器 (TK241号室・TG226-I号室)
8 大阪歴史博物館	陶器窯跡群	須恵器 (泉北考古資料館・基準資料) 須恵器 (TG68号室)
9 奈良女子大学大学院 大阪大学大学院	陶器窯跡群	須恵器 (TK230-1号室出土資料)
10 大阪大学大学院	陶器窯跡群	須恵器 (TG68号室・TG40号室・TK41号室)
11 韓国湖林博物館	陶器窯跡群	基準資料
12 大阪大学・流通科学大学	陶器窯跡群	縄尾 (TG223号室)
13 奈良文化財研究所	陶器窯跡群	須恵器 (TK230-I号室)
14 奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (TG214号室)
15 阪南史学会	陶器窯跡群	基準資料
16 大阪大学・流通科学大学	陶器窯跡群	縄尾 (TG223号室)
17 同志社大学大学院	木の本遺跡	石器
18 羽曳野市教育委員会	応神古墳外堤	円筒埴輪
19 大阪歴史博物館	普賢寺遺跡	写真資料 (遺跡、出土資料)
20 大阪府立狭山池博物館	菟屋北遺跡	土師器
21 大阪府立狭山池博物館	菟屋北遺跡、大和川今池遺跡・池島福万寺遺跡	勾玉
22 奈良文化財研究所	陶器窯跡群	須恵器 (TK230-I号室)
23 奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (TG214号室・KM22号室)
24 西條町教育委員会	置良郡糸里遺跡 砂遺跡	縄文土器棺 縄文土器・土偶・石器
25 奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (KM51号室・KM22号室・KM28号室)
26 西條町教育委員会	置良郡糸里遺跡・砂遺跡	縄文晩期土器
27 奈良文化財研究所	陶器窯跡群	須恵器 (TK230-1号室)
28 岡山大学大学院	沼津中町遺跡	石製尖頭器
29 太子町教育委員会	国府遺跡、はさみ山遺跡、八尾海遺跡	石器
30 大阪市立東洋陶磁美術館	陶器窯跡群	基準資料
31 太子町教育委員会	株山遺跡	サヌカイト機
32 茅ヶ崎市文化振興財団	余部遺跡	瓦器棺・土師器
33 南山大学大学院	鏡織南遺跡、砂遺跡、府中遺跡、置良郡糸里遺跡、浜輪遺跡	縄文土器
34 京都大学大学院	淡輪遺跡	縄文土器
35 鶴田町自治会	陶器窯跡群	基準資料

36	大阪大学大学院	陶器窯跡群	須惠器 (TG68号室・TG64号室・KM22号室)
37	堺市立みはら歴史博物館	応神古墳外堤	円筒埴輪
38	東京国際大学・早稲田大学先史考古学研究所	鎌良郡桑原遺跡	縄文土器
39	大阪大谷大学	向泉寺遺跡	軒丸瓦
40	京都大学大学院	林遺跡	縄文土器
41	京都市遺産文化財研究所・八幡市教育委員会	陶器窯跡群	須惠器 (TK230-I号室)
42	京都大学大学院	林遺跡・更良岡山遺跡	縄文土器
43	羽曳野市教育委員会	壺井御旗山古墳	円筒埴輪・意形埴輪
44	京都大学大学院	更良岡山遺跡	縄文土器
45	高知大学	陶器窯跡群	基準資料
46	京都大学大学院	更良岡山遺跡・淡輪遺跡	縄文土器
47	和泉市教育委員会	馬子塚古墳・大園遺跡	写真資料 (遺跡、出土資料)
48	堺市立みはら歴史博物館	応神古墳外堤	円筒埴輪
49	近つ飛鳥博物館	藤の森古墳・応神古墳外堤	馬具・獣歯 (藤の森古墳) 円筒埴輪 (応神古墳外堤)
50	奈良文化財研究所	八尾南遺跡・国府遺跡	旧石器
51	小牧市教育委員会	更良岡山遺跡・淡輪遺跡	縄文土器
52	京都大学大学院	板原遺跡・淡輪遺跡・西浦橋遺跡	縄文土器
53	なにわの海の時空館・(財)大阪府文化財協会	藤屋北遺跡	井戸枠転用船附
54	天理大学・柏原市教育委員会・権原考古学研究所・奈良文化財研究所・交野市教育委員会	藤屋北遺跡	鍛冶資料
55	交野市教育委員会	大谷窯跡	須惠器
56	奈良大学	陶器窯跡群	須惠器 (TG68号室)
57	大阪人権博物館	深田橋遺跡	須惠器
58	九州大学大学院	池上蟹根遺跡	弥生土器
59	奈良文化財研究所	陶器窯跡群	須惠器 (TK230-I号室)
60	大阪大学大学院	陶器窯跡群	須惠器 (TG68号室・TG43-I号室)
61	京都橋大学	藤屋北遺跡	卜骨
62	同志社大学大学院	田井中遺跡・寛弘寺遺跡	石器
63	京都大学大学院	淡輪遺跡・鳳東町4丁遺跡	縄文土器
64	福建博物院文物考古研究所	陶器窯跡群	基準資料
65	同志社大学大学院	田井中遺跡	石器
66	大阪府立近つ飛鳥博物館	北玉山古墳 伴津縁塚古墳	塚文鏡 円筒埴輪
67	奈良文化財研究所	陶器窯跡群	須惠器 (TK230-I号室)
68	帝塚山学院大学	陶器窯跡群	基準資料
69	京都大学大学院	淡輪遺跡・鳳東町4丁遺跡	縄文土器
70	交野市教育委員会	大谷遺跡	写真資料 (遺跡)
71	京都大学大学院	淡輪遺跡・鳳東町4丁遺跡	縄文土器
72	同志社大学大学院	田井中遺跡	石器

73	西宮市教育委員会	木の本遺跡	石倉丁
74	同志社大学大学院	田井中遺跡	石器
75	京都大学大学院	淡輪遺跡・西浦橋遺跡	縄文土器
76	八尾市教育委員会	高安古墳群	図面資料
77	京都大学大学院	淡輪遺跡	縄文土器
78	奈良文化財研究所	陶器窯跡群	須恵器 (TK230-1号窯)
79	同志社大学大学院	寛弘寺遺跡	石器
80	京都市埋蔵文化財研究所	陶器窯跡群	須恵器 (TK230-I号窯)
81	大阪大学大学院	壺井御旅山古墳	円筒埴輪・壺形埴輪
82	韓国湖林博物館	陶器窯跡群	基準資料
83	京都大学大学院	西板持遺跡・上遺跡・淡輪遺跡	縄文土器
84	奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (TG214号窯・KM22号窯)
85	(財)大阪府文化財センター	旧府庁跡	煉瓦
86	京都大学大学院	淡輪遺跡	縄文土器
87	(財)辰馬考古資料館	陶器窯跡群	基準資料
88	奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (TG214号窯・KM22号窯)
89	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	野間遺跡・淡輪遺跡	磨製石斧
90	京都大学大学院	上遺跡・淡輪遺跡	縄文土器
91	吹田市教育委員会	吉志部瓦窯跡	写真資料 (遺跡)
92	大阪市立大学	片山廃寺・玉手廃寺・玉手山A1号墳	図面・写真資料
93	羽曳野市教育委員会	藤池北古墳	円筒埴輪
94	奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (TG214号窯・KM22号窯)
95	羽曳野市教育委員会	玉手山A1号墳・塚ノ本古墳・萱振1号墳・彼方丸山古墳	円筒埴輪
96	奈良文化財研究所	陶器窯跡群	須恵器 (TK230-I号窯)
97	大阪府立泉北高等学校	蘇屋北遺跡・岸之本南遺跡	韓式土器
98	国学院大学	国府遺跡	巴形銅器
99	京都大学大学院	葎屋北遺跡	馬具・土器
100	奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (TG214号窯・KM22号窯)
101	新潟市埋蔵文化財センター	陶器窯跡群	須恵器 (TK66・TK37・TK2・TK15・214号窯・KM22号窯)
102	大阪大学大学院	尾道遺跡・大里遺跡	土師器
103	泉南市教育委員会	男里遺跡・幡代遺跡	図面資料
104	奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (TK230-1号窯)
105	歴史教育者協議会堺支部	南花田遺跡	写真資料
106	大阪府立近つ飛鳥博物館	東郷遺跡	特殊器台
107	奈良大学	陶器窯跡群	須恵器 (TK230-1号窯)
108	広島大学大学院	桑原西古墳群A-3号墳	陶棺
109	千葉大学	陶器窯跡群	基準資料
110	京都大学大学院	藤の森古墳	甕

— 平成 20 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図 —

課長
参事

- 保存管理グループ
- 指定文化財グループ

【文化財保護課】

℡ 06 (6941) 0351 (代表)

調査管理グループ 分室長 玉井 功	資料総括 主査 宮野淳一	主査 平田喜一 主査 三宅正浩	積算及び竣工等 遺物整理、泉北考古資料館協力等 写真・保存処理、資料貸出等
		主査 山上 弘 主査 亀島重則	センター指導・調整 事業量調査等 遺物整理等
	普及総括 主査 広瀬雅信	副主査 藤田道子 主査 森井貞雄	遺物整理 博物館支援
調査第一グループ 調査第一補佐 瀬川 健	調査第一総括 主査 藤永正明	主査 小林義孝 主査 岡本敏行 主査 松岡良憲 主査 大樂康宏	発掘調査・調整・指導 (豊能・三島) 発掘調査・調整・指導 (中・北河内) 発掘調査 発掘調査
		副主査 横田 明 副主査 宮崎泰史	発掘調査 発掘調査
		技師 岩瀬 透 技師 小川裕見子	発掘調査 発掘調査
調査第二グループ 調査第二補佐 高島 徹	調査第二総括 主査 西口陽一	主査 小山田宏一 主査 橋本高明 主査 藤澤真依 主査 三木 弘 主査 上林史郎	発掘調査・調整・指導 (南河内) 発掘調査・調整・指導 (泉州) 発掘調査 発掘調査 発掘調査
		副主査 服部文章 副主査 杉本清美 副主査 土屋みづほ	発掘調査 発掘調査 発掘調査
		技師 阿部幸一 技師 竹原伸次 技師 西川寿勝	発掘調査 発掘調査 発掘調査

【文化財調査事務所】

℡ 072 (291) 7401

(平成 20 年 9 月 1 日)

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 13

発行日 平成 21 年 10 月 30 日

発 行 大阪府教育委員会

〒 540-8571

大阪市中央区大手前 2 丁目

℡ 06-6941-0351

編 集 大阪府教育委員会文化財調査事務所

〒 590-0105

堺市南区竹城台 3 丁 21-4

℡ 072-291-7401

印 刷 石川特殊特急製本株式会社

〒 540-0014

大阪市中央区竈造寺町 7 番 38 号

℡ 06-6762-5851 (代)

